

北海道ヤングケアラーに関する実態調査結果 [報告書]

令和4年8月

調査の概要

1 調査目的

ヤングケアラーについては、家庭内のデリケートな問題であることや、本人や家族に自覚がないことなどから、支援が必要であったとしても表面化しにくく早期発見や支援に繋がりにくいといった課題がある。調査を通じて、「ヤングケアラー」の認知度の向上を図るとともに、昨年度実施した、道内中学生、高校生の調査に引き続き、道内の小学生、大学生、小学校における家族の世話の状況やそれに伴う日常生活への支障、支援のニーズ等を把握し、ヤングケアラーの早期発見と支援策の検討を行うための資料とすることを目的に実施した。

2 調査方法

- ・ 調査票の内容は、令和3年度に実施された国の調査を参考にし、北海道ケアラー支援有識者会議で検討した。
- ・ 無記名のアンケート方式で実施。小学生、大学生、小学校のいずれも Web 環境から任意で回答。

目次

I 小学生の生活実態に関するアンケート調査

1 実施概要	1
2 調査結果	
A. 基本情報	2
B. 調査結果	
お世話が必要な人がいるか	3
お世話を必要としている方は誰か	3
お世話を必要としている方の状況	4
自身も家族の世話をしているか	5
誰のお世話をしているか	5
お世話をしている日数	6
平日にお世話をしている時間数	7
休日にお世話をしている時間数	8
何歳頃からお世話をしているか	9
お世話をしていることによる影響	9
お世話をすることについて感じていること	10
お世話を必要としている家族のことや、 お世話の悩みを誰かに相談したことがあるか	11
相談した相手	12
相談していない理由	13
お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを 聞いてくれる人がいるか	14
学校の先生や周りの大人に支援してほしいこと	15
ヤングケアラーの認知度	16

II 大学生の生活実態に関するアンケート調査

1 実施概要	17
2 調査結果	
A. 基本情報	18
B. 調査結果	20
回答者全体	
お世話の経験の有無	20
過去にケアをしていた方	
お世話をしていた方は誰か	21
お世話を必要としていた方の状況	21
お世話の内容	22
お世話をしていた日数	23
平日にお世話をしていた時間数	23
休日にお世話をしていた時間数	24
何歳頃からお世話をしていたか	24
何歳頃までお世話をしていたか	25

お世話の悩みを相談したことがあるか 25

相談しなかった理由 26

18歳未満の時から現在もケアをしている方

お世話をしている方は誰か 27

お世話を必要としている方の状況 27

お世話の内容 28

お世話をしている日数 29

平日にお世話をしている時間数 29

休日にお世話をしている時間数 30

何歳頃からお世話をしていたか 30

お世話の悩みを相談したことがあるか 31

相談しない理由 31

過去にケアをしていた方・18歳未満の時から現在もケアをしている方

大学進学に当たってのサポート 32

大学に進学する上で苦労したこと 33

悩んだり、困っていたこと 34

必要なサポート 35

18歳未満の時から又は18歳以上から現在もケアをしている方

ケアをしていることで、今後不安なこと 36

回答者全体

ヤングケアラーの認知度 37

III 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

1 実施概要 38

2 調査結果

A. 基本情報 39

B. 調査結果

SSW、SCの派遣・配置状況 40

校内で情報共有しているケースの有無 41

校内の検討体制 42

「不登校の子どものケースに関する校内の
検討体制で検討」等の具体的な体制 43

「個別対応」の具体的な体制 46

学校以外の関係機関との連携 47

「ヤングケアラー」の認知度 48

実態把握の有無 49

実態把握の方法 50

ヤングケアラーと思われる子どもの有無 51

ヤングケアラーと思われる子どもの状況 51

ヤングケアラーを外部の支援につないだケース . . . 52

ヤングケアラーの有無を「わからない」と
回答した理由 59

ヤングケアラーを支援するために必要なこと 60

I 小学生の生活実態に関するアンケート調査

1 実施概要

(1) 調査対象

道内の公立小学校、義務教育学校（札幌市を除く。）に通う小学5年生、
小学6年生 約5万人

(2) 調査方法

各学校宛に調査概要と保護者向け依頼文を郵送し、校内で児童に配布。
児童は各自、PC、タブレット、スマートフォン等を用いて調査概要等に
記載されたURL、QRコードから調査回答フォームにアクセスし、Web
上で回答。

(3) 調査期間

2022年7月12日（火） ～ 2022年7月27日（水）

(4) 回答状況

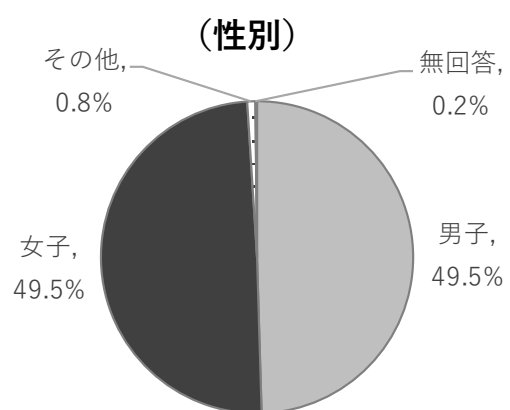
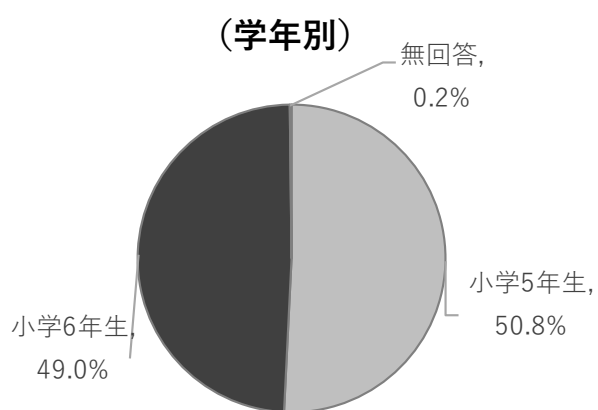
調査対象	有効回答数	回収率
48,576	14,063	29.0%

2 調査結果

A.基本情報

回答者の学年、性別は次のとおり。

	回答全体	男子	女子	その他	無回答
回答全体	(n=14,063)	6,966	6,955	118	24
1.小学5年生	7,141	3,571	3,514	47	9
2.小学6年生	6,896	3,382	3,433	71	10
無回答	26	13	8	0	5

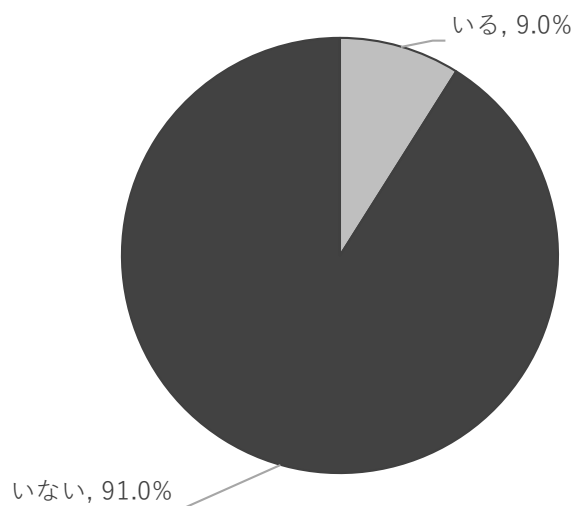


B. 調査結果

問3 家族の中にお世話が必要な人がいるか（あてはまる番号1つを選択）

お世話が必要な人が「いる」と回答したのは全体の1259件、「いない」と回答したのは12,804件という結果となった。

回答全体 (n=14,063)	
1. いる	1,259
2. いない	12,804
無回答	0

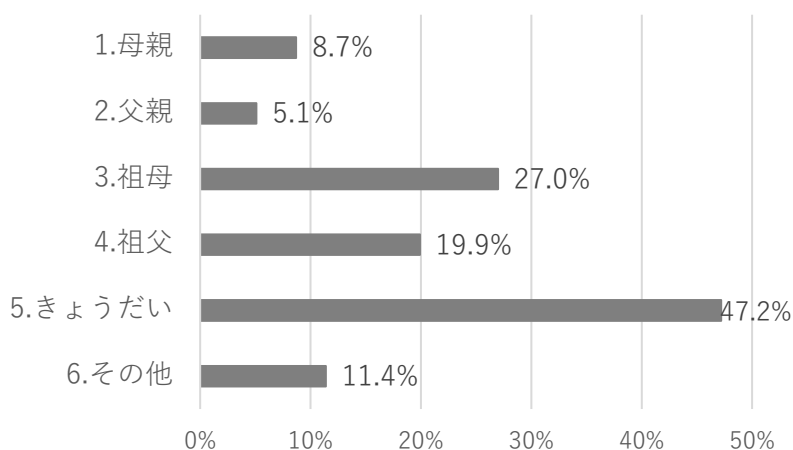


問4 (1) お世話を必要としている方は次の誰か（複数回答）

対象：問3で「1. いる」と回答した方

お世話を必要としている方として最も多い回答は「きょうだい」で594件、次いで「祖母」とが340件、「祖父」が251件だった。

回答全体 (n=1,259)	
1. 母親	109
2. 父親	64
3. 祖母	340
4. 祖父	251
5. きょうだい	594
6. その他	144



問4（2）お世話を必要としている方の状況（複数回答）

対象：問3で「1. いる」と回答した方

前問で選択したお世話を必要としている方について、それぞれ状況を聞いた。母親は「若い」が44件と最も多く、次いで「高齢（65歳以上）」が27件、「身体が不自由」が21件だった。父親は「身体が不自由」が28件と最も多く、次いで「若い」が22件、「高齢（65歳以上）」が21件だった。祖母は「高齢（65歳以上）」が305件と最も多く、次いで「身体が不自由」が70件、「介護が必要」が62件だった。祖父は「高齢（65歳以上）」が234件と最も多く、次いで「身体が不自由」が52件、「介護が必要」が44件だった。きょうだいは「若い」が549件と最も多く、次いで「発達障がい」が27件、「知的障がい」が25件だった。

回答全体	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 高齢（65歳以上）	27	21	305	234	24	73
2. 若い	44	22	7	3	549	36
3. 介護（食事や身の回りのお世話）が必要	11	7	62	44	24	23
4. 認知症	7	5	50	28	3	15
5. 身体が不自由（※1）	21	28	70	52	23	24
6. 知的障がい	5	1	3	5	25	12
7. 発達障がい（※2）	9	5	6	2	27	6
8. こころの病気（※3）	15	4	13	4	6	7
9. 依存症（※4）	6	4	5	9	3	4
10. 1～9以外の病気やけが	17	0	0	0	0	0
11. その他	24	0	0	0	0	0

※1 身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいを含む

※2 知的障がいを除く

※3 うつ病など、疑い含む

※4 お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている、疑い含む

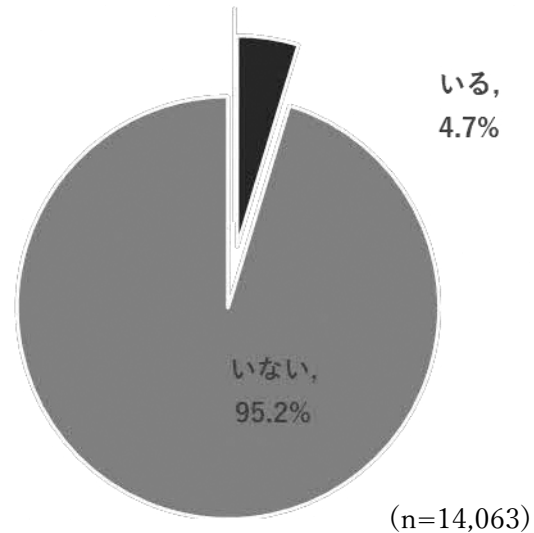
問4 (3) 自身も家族の世話をしているか

対象：問3で「1. いる」と回答した方

自身もお世話をしているかについて、「はい」と回答したのは654件であり、回答者全体に占める割合は4.7%だった。

回答全体 (n=1,259)	
1. はい	654
2. いいえ	605
無回答	0

(「1. はい」と回答した者が回答者全体に占める割合)

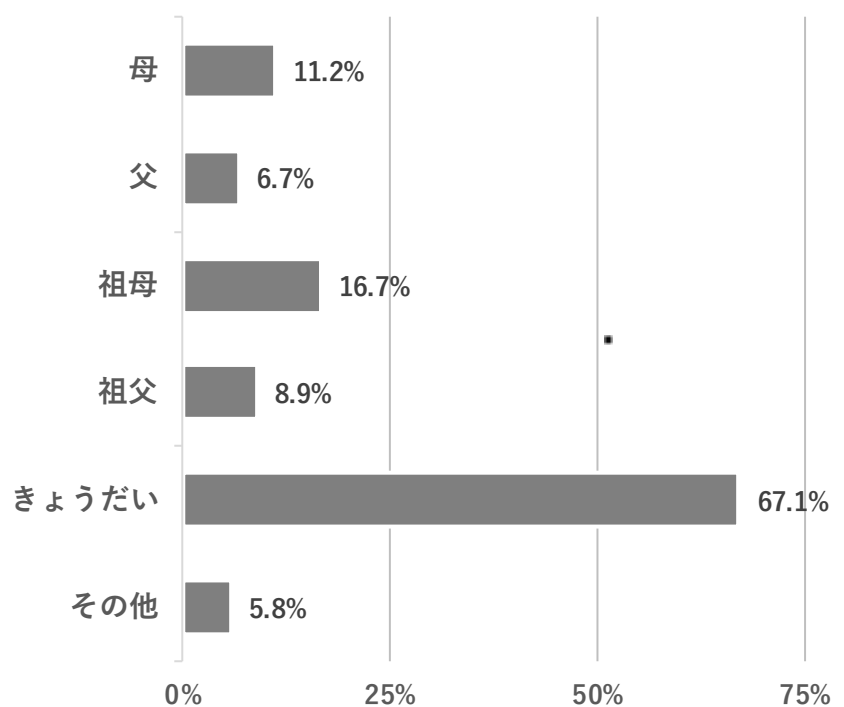


問4 (4) 誰のお世話をしているか (複数回答)

対象：問4 (3) で「1. はい」と回答した方

お世話をしている相手は、「きょうだい」が最も多く439件、次いで「祖母」が109件となった。

回答全体 (n=654)	
1. 母親	73
2. 父親	44
3. 祖母	109
4. 祖父	58
5. きょうだい	439
6. その他	38

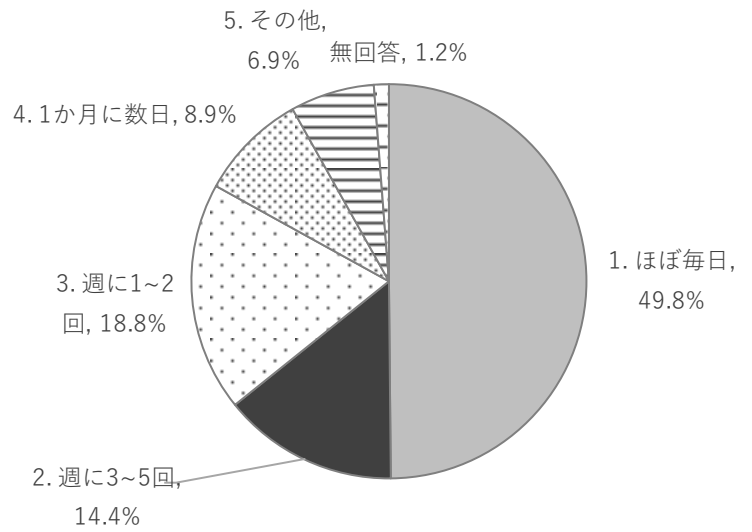


問4（5）お世話をしている日数（あてはまる番号1つを選択）

対象：問4（3）で「1. はい」と回答した方

お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が326件と約半数を占めた。

回答全体	(n=654)
1. ほぼ毎日	326
2. 週に3~5回	94
3. 週に1~2回	123
4. 1か月に数日	58
5. その他	45
無回答	8

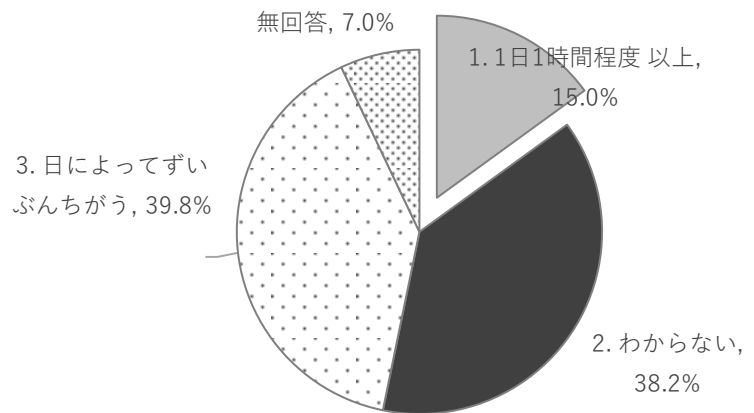


問4（6）平日（月曜日から金曜日など学校がある日）にお世話をしている時間数

対象：問4（3）で「1. はい」と回答した方

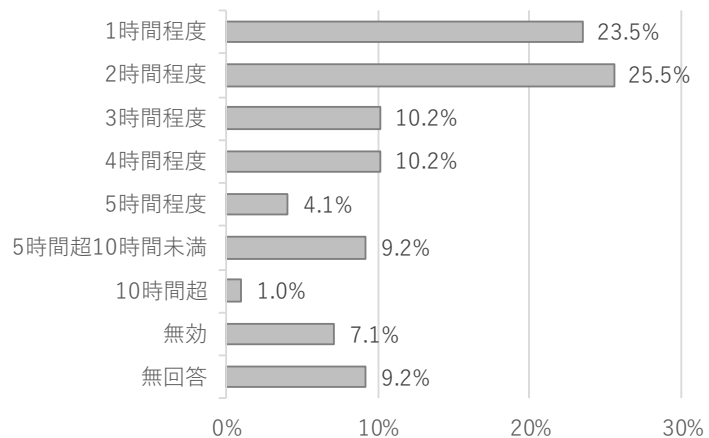
お世話に費やす時間（平日）は、具体的な時間数を回答いただいた中では、1時間から2時間程度が多い。

回答全体 (n=654)	
1. 1日1時間程度以上	98
2. わからない	250
3. 日によってずいぶんちがう	260
無回答	46



「1日1時間程度以上」の内訳

回答全体 (n=98)	
1時間程度	23
2時間程度	25
3時間程度	10
4時間程度	10
5時間程度	4
5時間超10時間未満	9
10時間超	1
無効	7
無回答	9

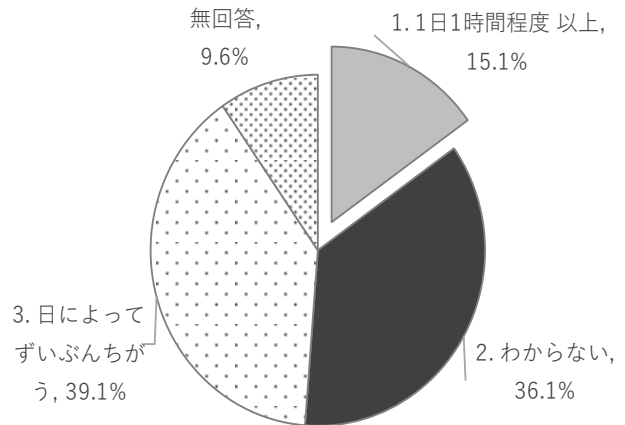


※無効は「100時間」など回答として整合性の取れないもの

問4 (7) 休日にお世話をしている時間数 対象：問4 (3) で「1. はい」と回答した方

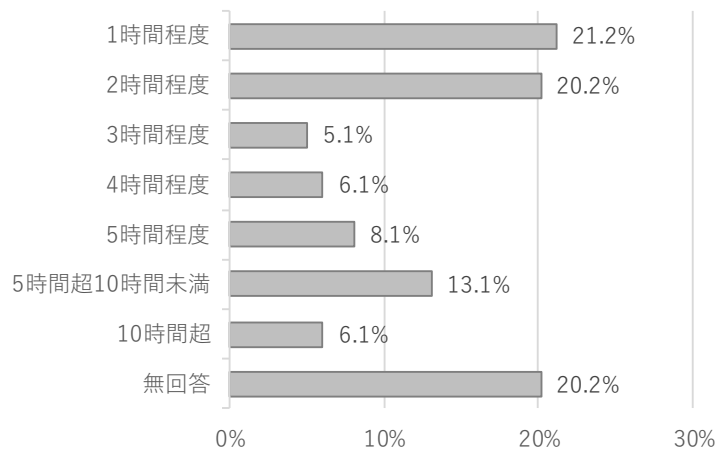
お世화에費やす時間（休日）は、具体的な時間数を回答いただいた中では、1時間から2時間程度が多い。

回答全体 (n=654)	
1. 1日1時間程度 以上	99
2. わからない	236
3. 日によってずいぶんちがう	256
無回答	63



「1日1時間程度以上」の内訳

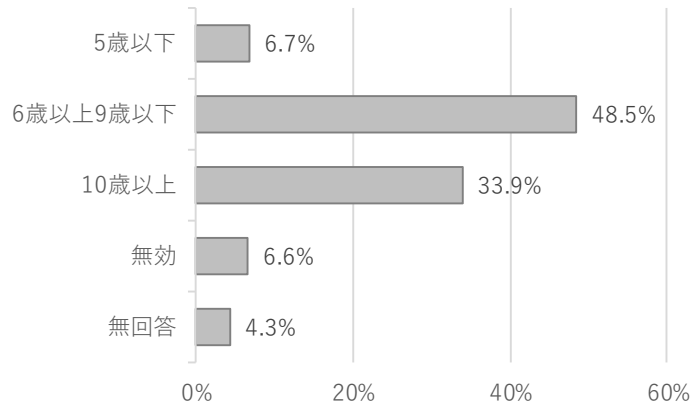
回答全体 (n=99)	
1時間程度	21
2時間程度	20
3時間程度	5
4時間程度	6
5時間程度	8
5時間超10時間未満	13
10時間超	6
無回答	20



問4 (8) 何歳頃からお世話をしているか 対象：問4 (3) で「1. はい」と回答した方

お世話を始めた年齢は、「6歳以上9歳以下」が317件と最も多い。

回答全体 (n=654)	
5歳以下	44
6歳以上9歳以下	317
10歳以上	222
無効	43
無回答	28

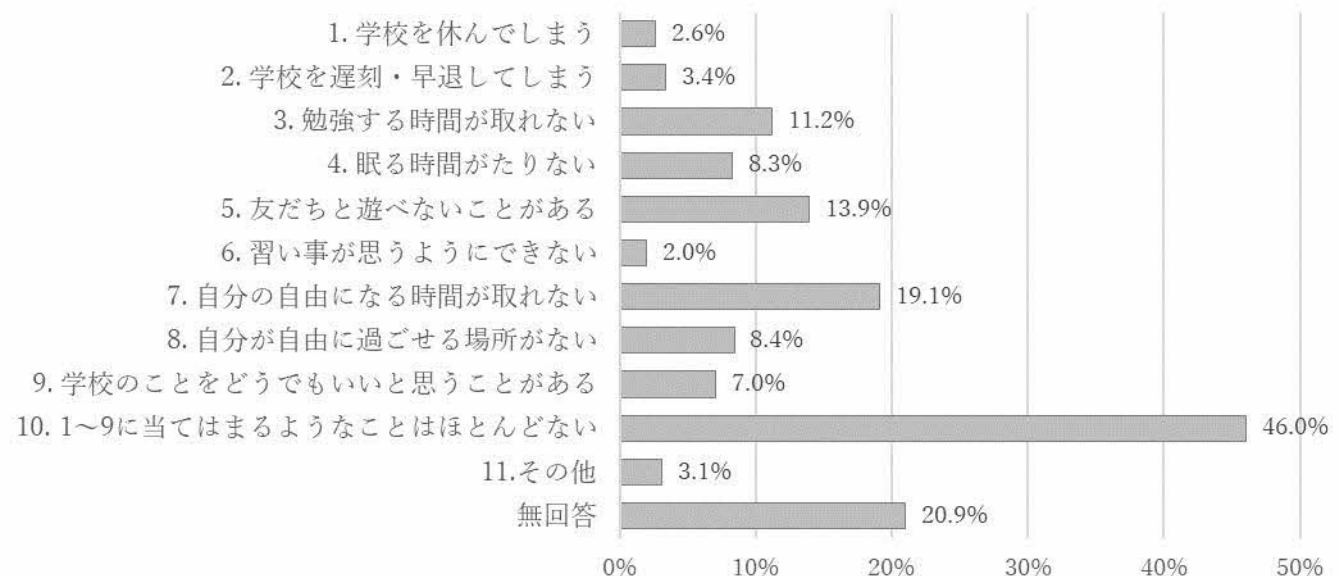


問5 お世話をしていることによる影響 (複数回答)

対象：問4 (3) で「1. はい」と回答した方

お世話をしている影響について、「1~9に当てはまるようなことはほとんどない」が301件と最も多かった。これを除くと、「自分の自由になる時間が取れない」が125件と最も多く、次いで「友だちと遊べないことがある」が91件、「勉強する時間が取れない」が73件だった。

回答全体	(n=654)	よくある	たまにある	無回答
1. 学校を休んでしまう	17	2	12	3
2. 学校を遅刻・早退してしまう	22	3	15	4
3. 勉強する時間が取れない	73	27	39	7
4. 眠る時間がたりない	54	26	22	6
5. 友だちと遊べないことがある	91	29	40	22
6. 習い事が思うようにできない	13	5	6	2
7. 自分の自由になる時間が取れない	125	51	62	12
8. 自分が自由に過ごせる場所がない	55	39	11	5
9. 学校のことをどうでもいいと思うことがある	46	31	12	3
10. 1~9に当てはまるようなことはほとんどない	301			
11. その他	20			
無回答	137			

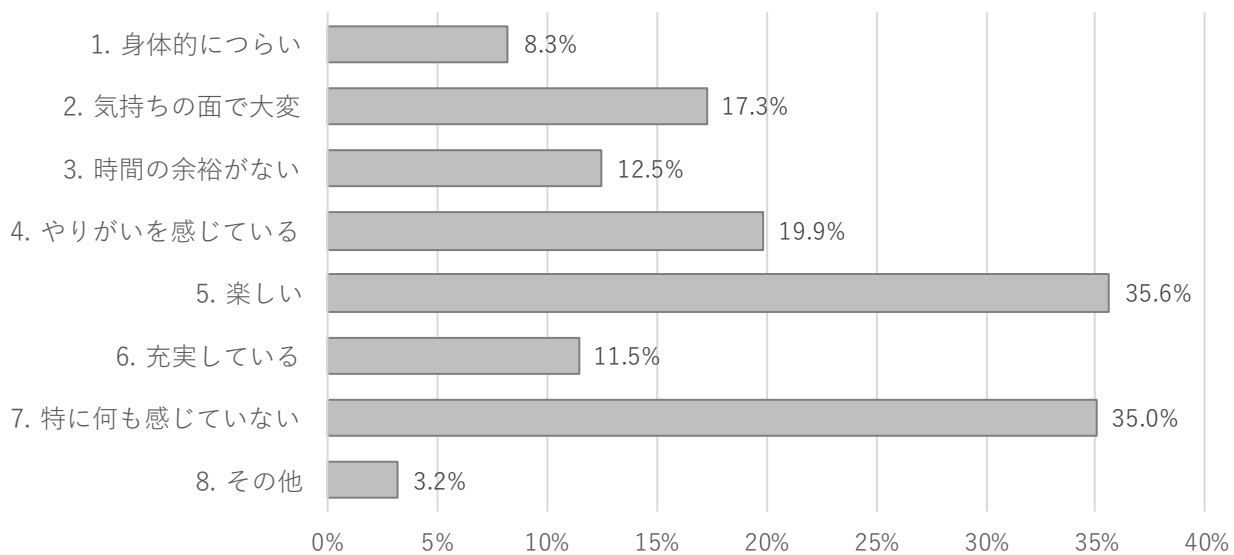


問6 お世話をすることについて感じていること（複数回答）

対象：問4（3）で「1. はい」と回答した方

お世話することについて感じることで最も多かったのは「楽しい」で233件、次いで「特に何も感じていない」が229件となった。一方で、「気持ちの面で大変」という回答が113件、「時間の余裕がない」という回答も82件あった。

回答全体	(n=654)
1. 身体的につらい	54
2. 気持ちの面で大変	113
3. 時間の余裕がない	82
4. やりがいを感じている	130
5. 楽しい	233
6. 充実している	75
7. 特に何も感じていない	229
8. その他	21

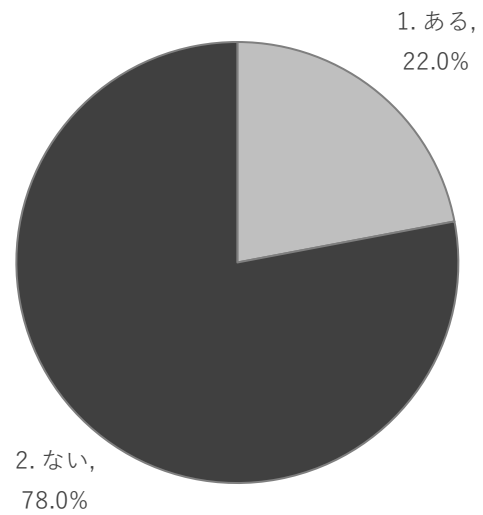


問7 お世話を必要としている家族のことや、お世話の悩みを誰かに相談したりしたことがあるか

対象：問4（3）で「1. はい」と回答した方

お世話について相談した経験について、「ある」が144件（22.0%）、「ない」が510件（78.0%）となった。

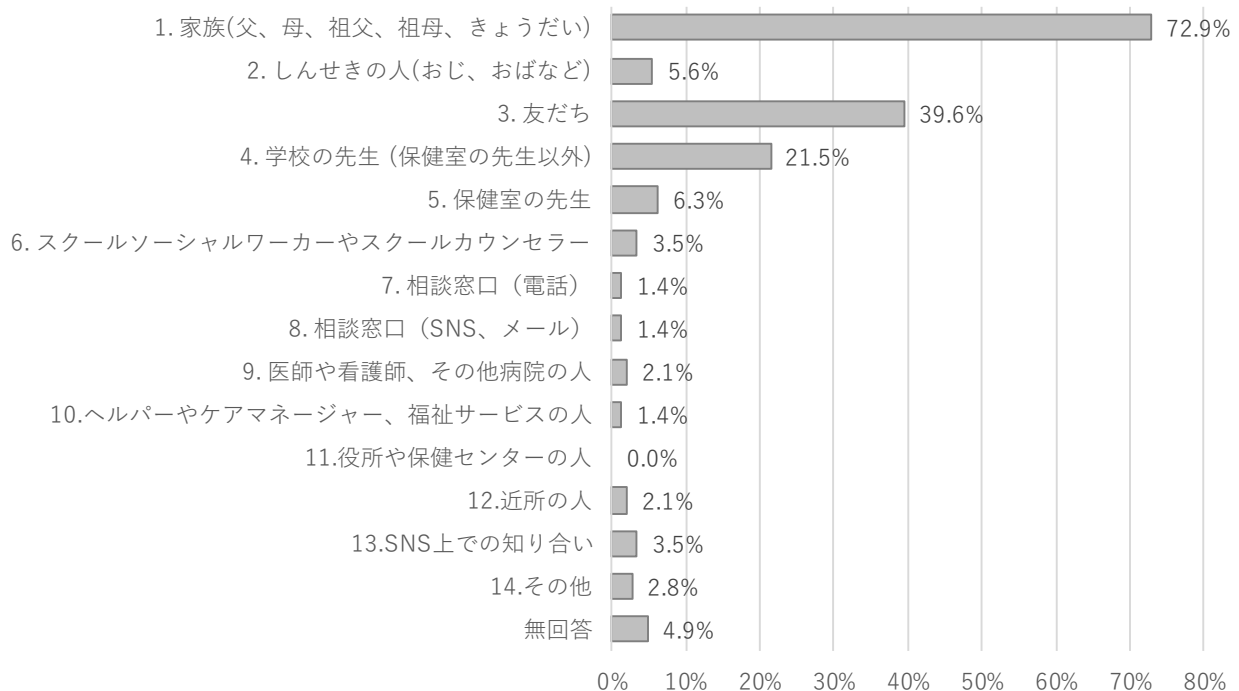
回答全体 (n=654)	
1. ある	144
2. ない	510



問8 相談した相手（複数回答） 対象：問7で「1. ある」と回答した方

お世話について相談したことが「ある」と回答した方に、その相談相手を聞いたところ、「家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）」が最も多く105件で、次いで「友だち」が57件となった。

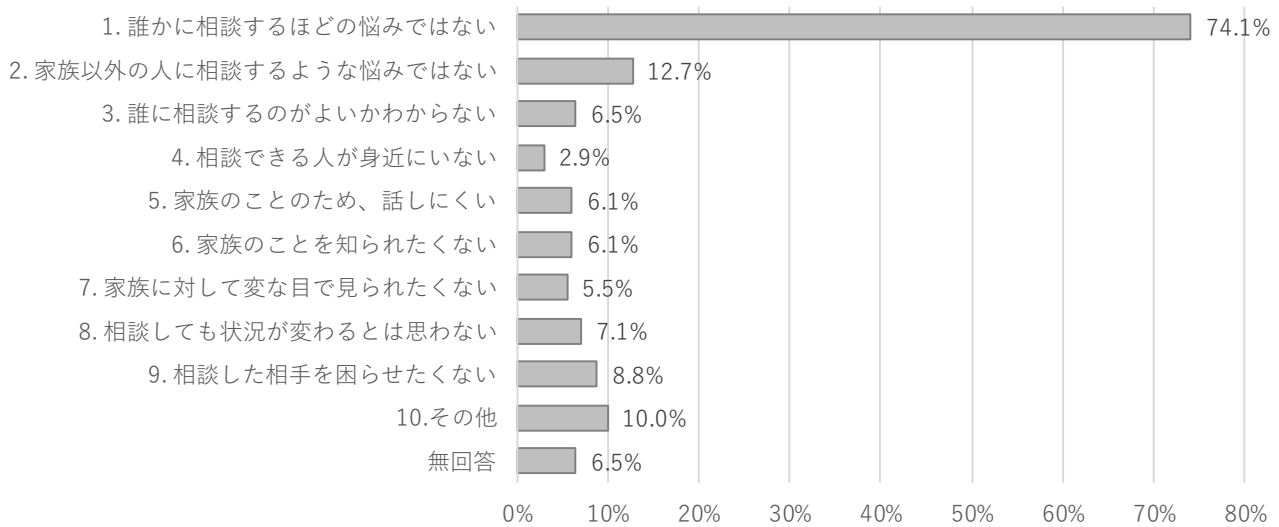
回答全体	(n=144)
1. 家族（父、母、祖父、祖母、きょうだい）	105
2. しんせきの人（おじ、おばなど）	8
3. 友だち	57
4. 学校の先生（保健室の先生以外）	31
5. 保健室の先生	9
6. スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー	5
7. 相談窓口（電話）	2
8. 相談窓口（SNS、メール）	2
9. 医師や看護師、その他病院の人	3
10. ヘルパーやケアマネージャー、福祉サービスの人	2
11. 役所や保健センターの人	0
12. 近所の人	3
13. SNS上での知り合い	5
14. その他	4
無回答	7



問9 相談していない理由（複数回答） 対象：問7で「2. ない」と回答した方

お世話について相談した経験が「ない」と回答した人にその理由について聞いたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」が378件と最も多く、次いで「家族以外の人に相談するような悩みではない」が65件、「相談した相手を困らせたくない」が45件となった。

回答全体	(n=510)
1. 誰かに相談するほどの悩みではない	378
2. 家族以外の人に相談するような悩みではない	65
3. 誰に相談するのがよいかわからない	33
4. 相談できる人が身近にいない	15
5. 家族のこのため、話しにくい	31
6. 家族のことを知られたくない	31
7. 家族に対して変な目で見られたくない	28
8. 相談しても状況が変わるとは思わない	36
9. 相談した相手を困らせたくない	45
10. その他	51
無回答	33

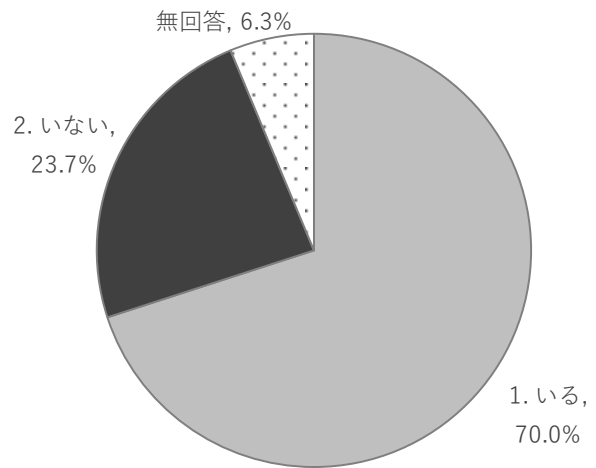


問10 お世話をしている家族のことや、お世話の悩みを聞いてくれる人がいるか

対象：問7で「2. ない」と回答した方

お世話について相談した経験が「ない」と回答した人に、家族や世話の悩みについて聞いてくれる人の有無を聞いたところ、「いる」が357件（70.0%）、「いない」が121件（23.7%）となった。

回答全体 (n=510)	
1. いる	357
2. いない	121
無回答	32

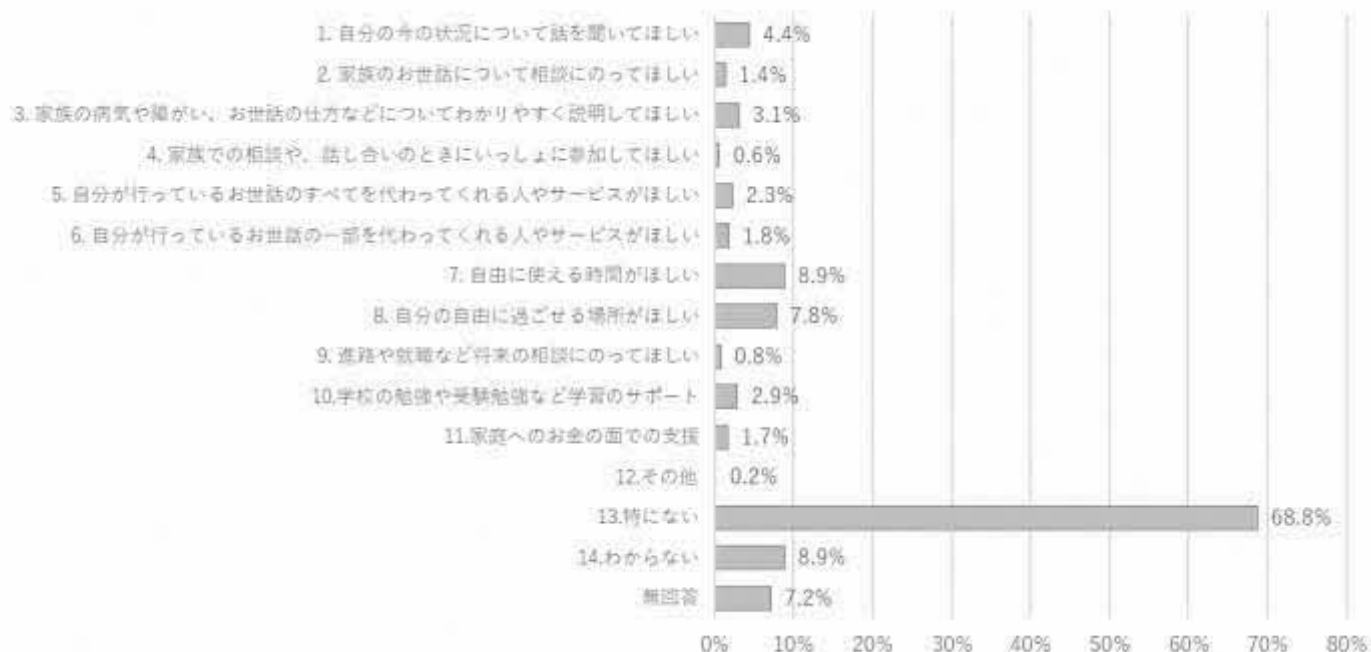


問11 お世話をしていることに関して、学校の先生や周りの大人に支援してほしいこと（複数回答）

対象：問4（3）で「1. はい」と回答した方

学校や周りの大人に支援してほしいことを聞いたところ、「特にない」が450件と最も多く、次いで「わからない」が58件となった。この2つの選択肢を除くと、「自由に使える時間がほしい」が58件と最も多く、次いで「自分の自由に過ごせる場所がほしい」が51件となった。

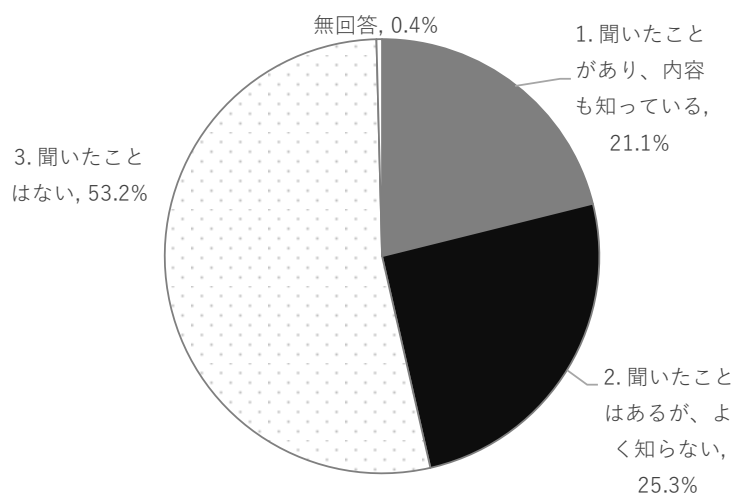
回答全体	(n=654)
1. 自分の今の状況について話を聞いてほしい	29
2. 家族のお世話について相談にのってほしい	9
3. 家族の病気や障がい、お世話の仕方などについてわかりやすく説明してほしい	20
4. 家族での相談や、話し合いのときにいっしょに参加してほしい	4
5. 自分が行っているお世話のすべてを代わってくれる人やサービスがほしい	15
6. 自分が行っているお世話の一部を代わってくれる人やサービスがほしい	12
7. 自由に使える時間がほしい	58
8. 自分の自由に過ごせる場所がほしい	51
9. 進路や就職など将来の相談にのってほしい	5
10. 学校の勉強や受験勉強など学習のサポート	19
11. 家庭へのお金の面での支援	11
12. その他	1
13. 特にない	450
14. わからない	58
無回答	47



問12 「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか聞いたところ、「聞いたことはない」が最も多く 7,476 件 (53.2%) であり、次いで「聞いたことはあるが、よく知らない」が 3,560 件 (25.3%) だった。「聞いたことがあり、内容も知っている」は 2,969 件 (21.2%) だった。

回答全体 (n=14,063)	
1. 聞いたことがあり、内容も知っている	2,969
2. 聞いたことはあるが、よく知らない	3,560
3. 聞いたことはない	7,476
無回答	58



II 大学生の生活実態に関するアンケート調査

1 実施概要

(1) 調査対象

道内大学生 約7万人

(2) 調査方法

各大学宛に調査概要を送付し、大学を通じて学生に電子メールなどで回答を依頼。学生はPC、タブレット、スマートフォン等を用いて、調査概要等に記載されたURL、QRコードから調査回答フォームにアクセスし、Web上で回答。また、各大学にQRコード付きのポスターを掲示。

(3) 調査期間

2022年7月12日(火) ～ 2022年7月27日(水)

(4) 回答状況

調査対象	有効回答数	回収率
69,854	1,041	1.5%

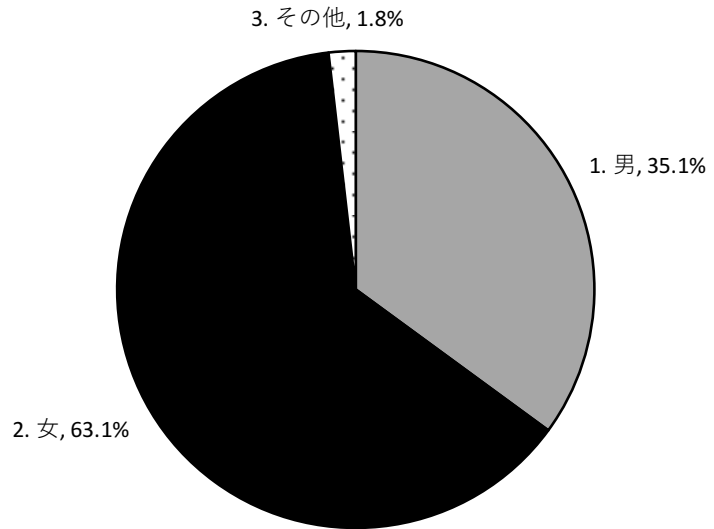
2 調査結果

A.基本情報

回答者の性別、居住形態等は次のとおり。

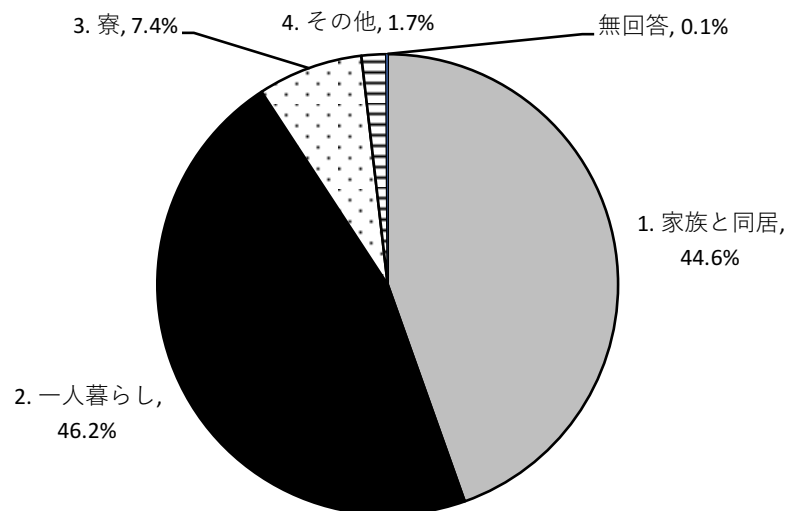
性別

全体	(n=1,041)
1. 男	365
2. 女	657
3. その他	19



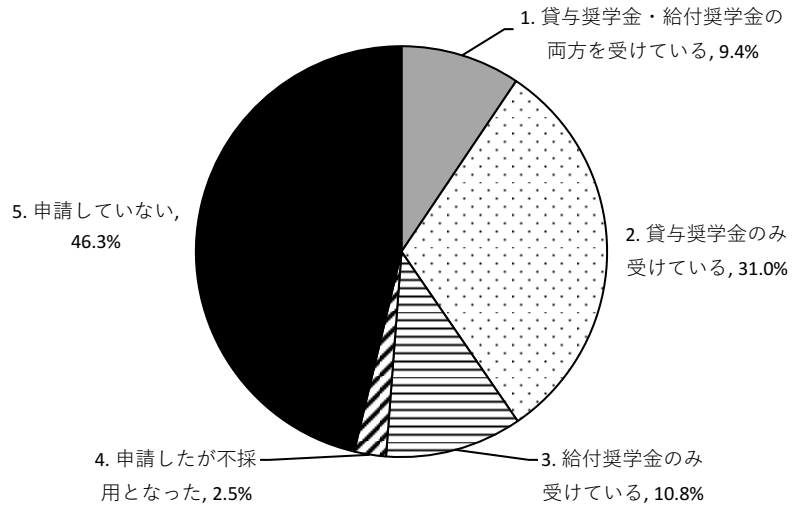
居住形態

全体	(n=1,041)
1. 家族と同居	464
2. 一人暮らし	481
3. 寮	77
4. その他	18
無回答	1



奨学金の受給状況

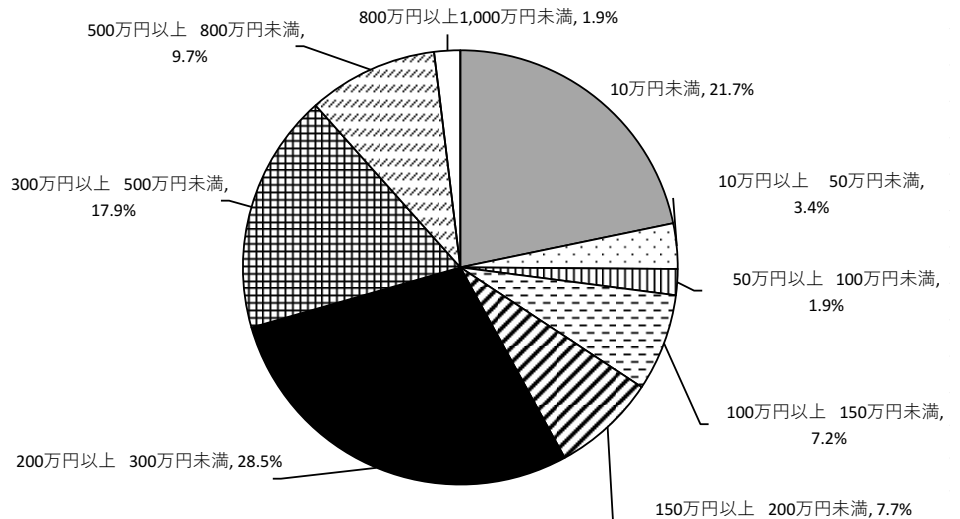
全体 (n=1,041)	
1. 貸与奨学金・給付奨学金の両方を受けている	98
2. 貸与奨学金のみを受けている	323
3. 給付奨学金のみを受けている	112
4. 申請したが不採用となった	26
5. 申請していない	482



大学卒業時の予定貸与総額（奨学金）

奨学金の受給状況について、「貸与奨学金・給付奨学金の両方を受けている」、「貸与奨学金のみを受けている」と回答した者のうち、卒業時の予定貸与総額について回答があった207件について集計。

全体 (n=207)	
10万円未満	45
10万円以上 50万円未満	7
50万円以上 100万円未満	4
100万円以上 150万円未満	15
150万円以上 200万円未満	16
200万円以上 300万円未満	59
300万円以上 500万円未満	37
500万円以上 800万円未満	20
800万円以上1,000万円未満	4
1,000万円以上	0



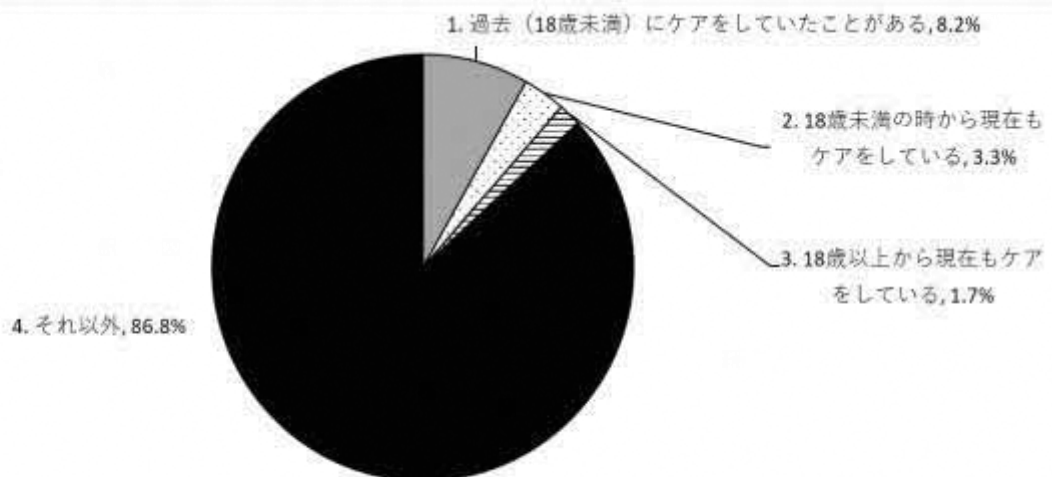
B.調査結果

回答者全体

問4 あなたは、これまで家族やきょうだいなどのお世話を行ってきましたか。
又は、現在お世話を行っていますか。

お世話をしている家族の有無について聞いたところ、「過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」が85件（8.2%）、「18歳未満の時から現在もケアをしている」が34件（3.3%）、「18歳以上から現在もケアをしている」が18件（1.7%）となった。

回答全体	(n=1,041)
1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある	85
2. 18歳未満の時から現在もケアをしている	34
3. 18歳以上から現在もケアをしている	18
4. それ以外	904



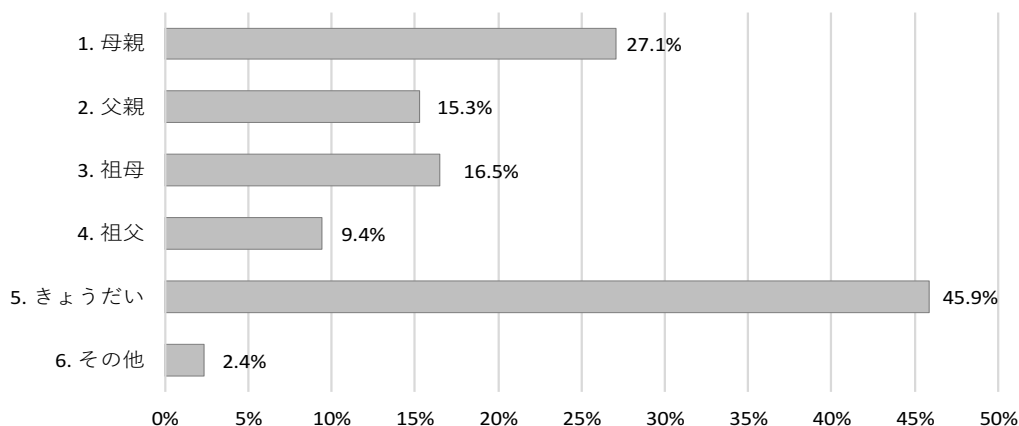
過去にケアをしていたことがある方

問5（1） お世話をしていた方は次の誰か（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

過去にケアをしていたことがある方に、お世話をしていた相手を聞いたところ、「きょうだい」が39件と最も多く、次いで「母親」が23件となった。

回答全体	(n=85)
1. 母親	23
2. 父親	13
3. 祖母	14
4. 祖父	8
5. きょうだい	39
6. その他	2



問5（2） お世話を必要としていた方の状況（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

前問で選択したお世話を必要としていた方について、それぞれ状況を聞いた。「1～9以外の病気やけが」と「その他」を除くと、母親は「精神的な病気」が13件で最も多く、次いで「身体が不自由」が4件だった。父親は「精神的な病気」が6件で最も多く、次いで「身体が不自由」、「依存症」が4件だった。祖母は「高齢（65歳以上）」が12件と最も多く、次いで「認知症」が9件、「要介護」が8件だった。祖父は「高齢（65歳以上）」が6件と最も多く、次いで「要介護」が5件だった。きょうだいは「若い」が28件と最も多く、次いで「知的障がい」が5件だった。

回答全体	(n=85)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 高齢（65歳以上）		0	1	12	6	0	0
2. 若い		1	1	1	1	28	3
3. 要介護（介護が必要な状態）		0	3	8	5	0	0
4. 認知症		0	1	9	2	0	0
5. 身体が不自由（※1）		4	4	5	2	1	1
6. 知的障がい		0	0	0	0	5	0
7. 発達障がい（※2）		0	0	0	0	4	0
8. 精神的な病気（※3）		13	6	2	1	4	0
9. 依存症（※4）		4	3	0	0	1	0
10. 1～9以外の病気やけが		6	6	3	3	1	0
11. その他		5	0	0	0	0	0

※1 身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいを含む

※2 知的障がいを除く

※3 気分の不安定さや極度の不安などがあり生活に支障がある状態、疑いを含む

※4 お酒の飲み過ぎや賭け事のしすぎなどにより生活に支障の出る状態、疑い含む

問5 (2) お世話の内容 (複数回答)

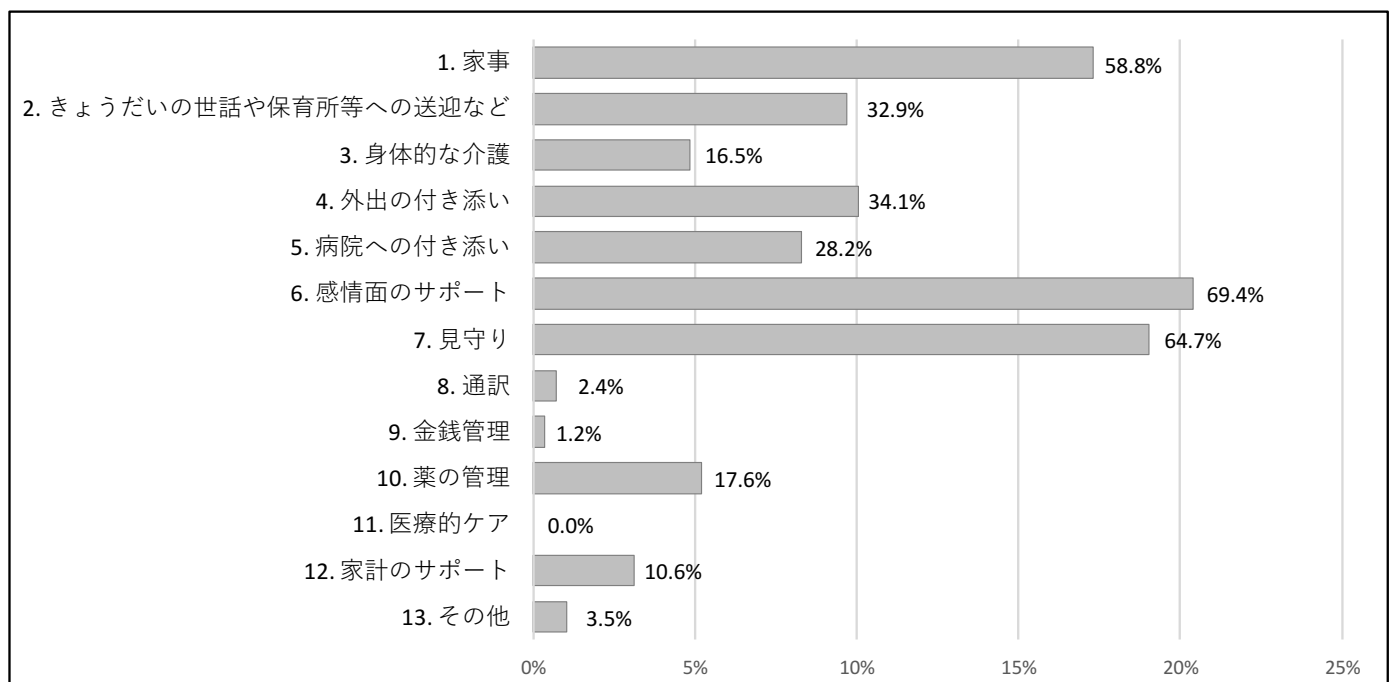
対象：問4で「1. 過去 (18歳未満) にケアをしていたことがある」と回答した方

行っていたお世話の内容を聞いたところ、「感情面のサポート」が59件と最も多く、次いで「見守り」が55件、「家事」が50件となった。

お世話を必要としていた者について、それぞれ必要なお世話の内容を見ると、母親は「感情面のサポート」が17件と最も多く、次いで「家事」が14件だった。父親は「感情面のサポート」と「家事」がそれぞれ9件と最も多く、次いで「見守り」が6件だった。祖母は「見守り」が12件で最も多く、次いで「感情面のサポート」と「外出の付き添い」がそれぞれ7件だった。祖父は「見守り1」が6件で最も多く、次いで「病院への付き添い」が5件だった。きょうだいは「感情面のサポート」と「見守り」がそれぞれ22件と最も多く、次いで「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」が19件、「家事」が18件だった。

回答全体 (n=85)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 家事	14	9	6	3	18	0
2. きょうだいの世話や保育所等への送迎など	3	2	1	1	19	2
3. 身体的な介護	0	2	5	4	3	0
4. 外出の付き添い	6	2	7	3	10	1
5. 病院への付き添い	8	3	5	5	1	2
6. 感情面のサポート	17	9	7	3	22	1
7. 見守り	7	6	12	6	22	2
8. 通訳	1	1	0	0	0	0
9. 金銭管理	1	0	0	0	0	0
10. 薬の管理	3	2	6	2	1	1
11. 医療的ケア	0	0	0	0	0	0
12. 家計のサポート	2	2	1	1	2	1
13. その他	0	0	0	0	3	0

(全体)

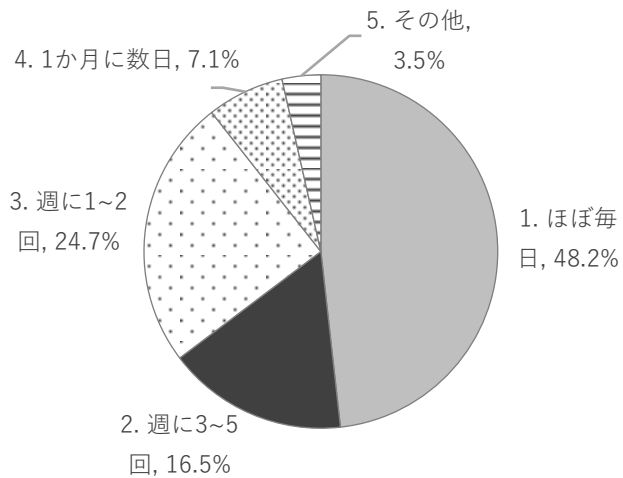


問5（3） お世話をしていた日数（あてはまる番号1つを選択）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

お世話の頻度は「ほぼ毎日」が41件と過半数を占めた。

回答全体 (n=85)	
1. ほぼ毎日	41
2. 週に3～5日	14
3. 週に1～2日	21
4. 1か月に数日	6
5. その他	3
無回答	0

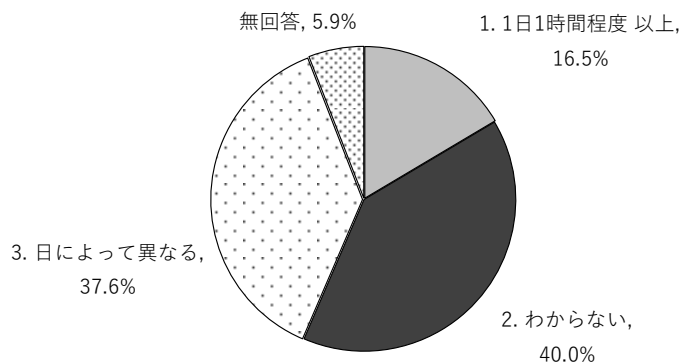


問5（4） 平日（月曜日から金曜日など学校がある日）にお世話をしていた時間数

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

サンプル数に限りはあるが、平日にお世話に費やした時間は、具体的な時間数を回答いただいた中では、1時間から3時間程度が多い。

回答全体 (n=85)	
1. 1日1時間程度以上	14
2. わからない	34
3. 日によって異なる	32
無回答	5



「1日1時間程度以上」の内訳

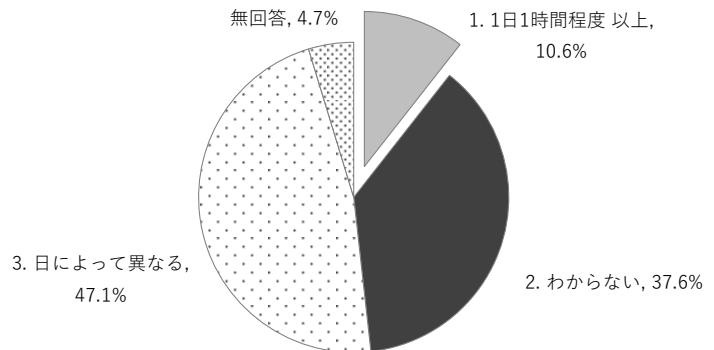
回答全体 (n=14)	
1時間程度	4
2時間程度	2
3時間程度	3
4時間程度	2
5時間程度	1
5時間超10時間未満	2

問5（5） 休日にお世話をしていた時間数

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

サンプル数に限りはあるが、休日にお世話に費やした時間について、5時間超の回答もあった。

回答全体 (n=85)	
1. 1日1時間程度 以上	9
2. わからない	32
3. 日によって異なる	40
無回答	4



「1日1時間程度以上」の内訳

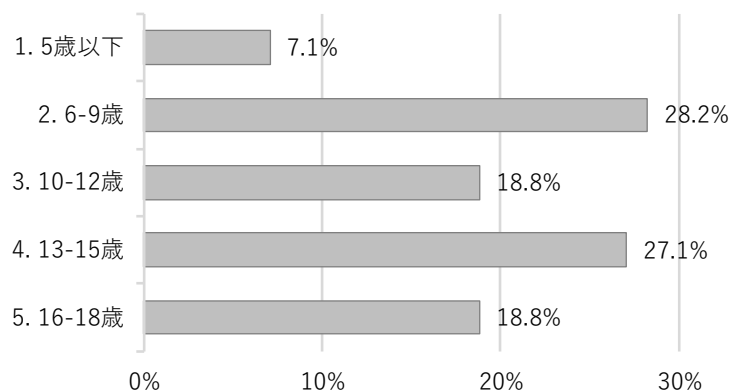
回答全体 (n=9)	
1時間程度	0
2時間程度	1
3時間程度	1
4時間程度	0
5時間程度	2
5時間超10時間未満	3
10時間超	2

問5（6） 何歳頃からお世話をしていたか

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

お世話を始めた年齢を聞いたところ、「6-9歳」が24件と最も多く、次いで「13-15歳」が23件となった。

回答全体 (n=85)	
1. 5歳以下	6
2. 6-9歳	24
3. 10-12歳	16
4. 13-15歳	23
5. 16-18歳	16

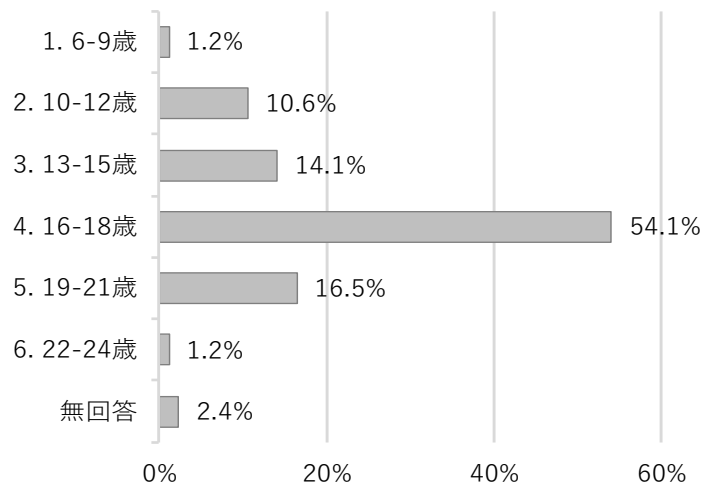


問5（7） 何才頃までお世話をしていたか

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

何歳頃までお世話をしていたか聞いたところ、「16-18歳」が46件と最も多かった。

回答全体 (n=85)	
1. 6-9歳	1
2. 10-12歳	9
3. 13-15歳	12
4. 16-18歳	46
5. 19-21歳	14
6. 22-24歳	1
無回答	2

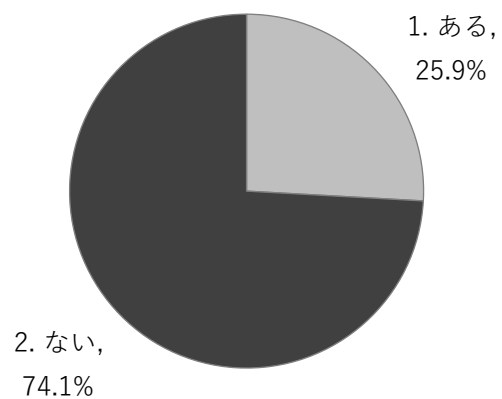


問5（8） お世話の悩みを相談したことがあるか

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」と回答した方

お世話について相談した経験の有無を聞いたところ、「ない」が63件（74.1%）、「ある」が22件（25.9%）となった。

回答全体 (n=85)	
1. ある	22
2. ない	63

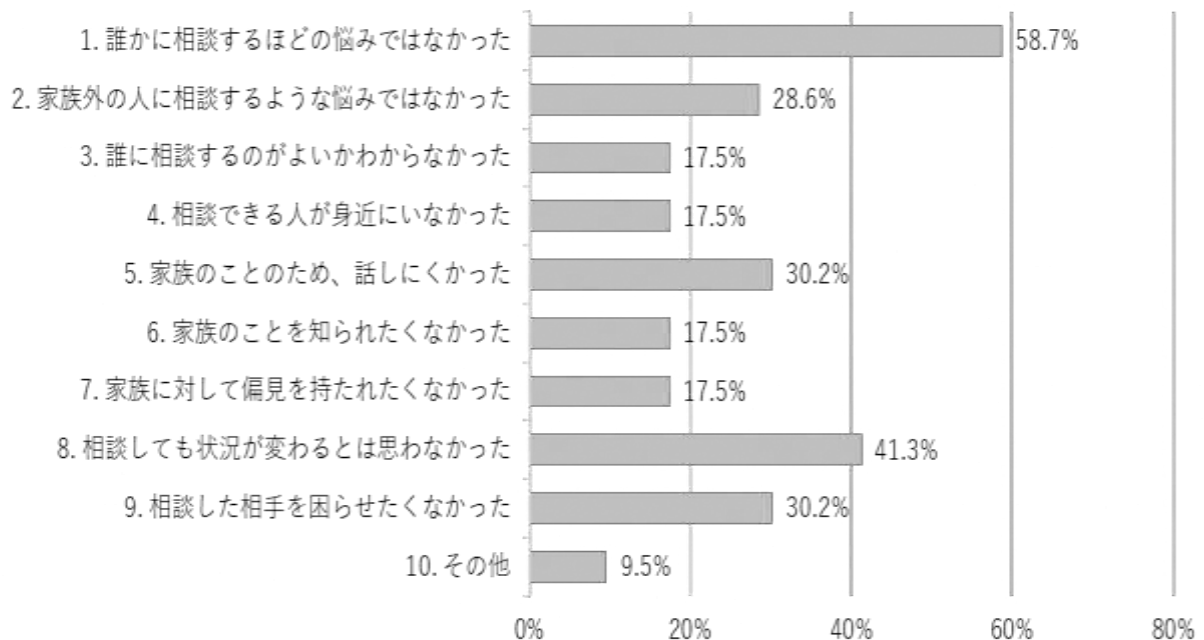


問5（9） 相談しなかった理由（複数回答）

対象：問5（8）で「2. ない」と回答した方

前問で相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由を聞いたところ、「誰かに相談するほどの悩みではなかった」が37件と最も多く、次いで「相談しても状況が変わるとは思わなかった」が26件となった。

回答全体 (n=63)	
1. 誰かに相談するほどの悩みではなかった	37
2. 家族外の人に相談するような悩みではなかった	18
3. 誰に相談するのがよいかわからなかった	11
4. 相談できる人が身近にいなかった	11
5. 家族のこのため、話しにくかった	19
6. 家族のことを知られたくなかった	11
7. 家族に対して偏見を持たれたくなかった	11
8. 相談しても状況が変わるとは思わなかった	26
9. 相談した相手を困らせたくなかった	19
10. その他	6



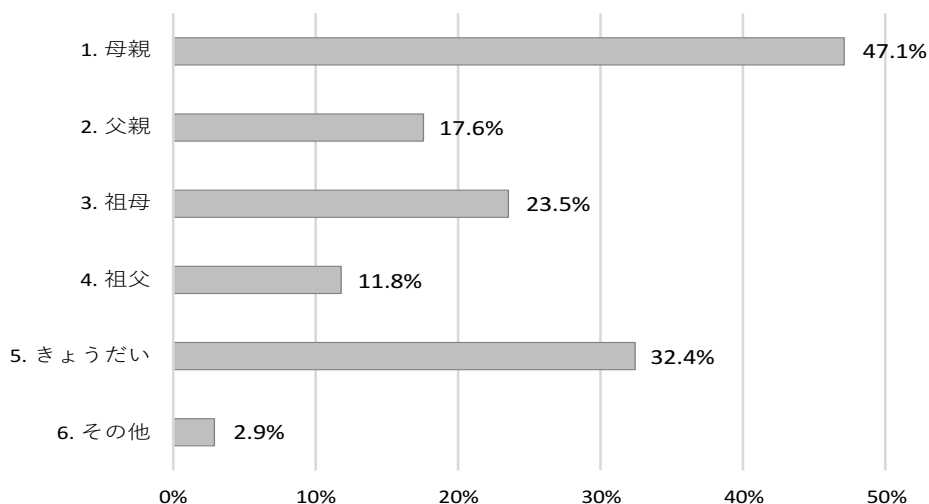
18歳未満の時から現在もケアをしている方

問6 (1) お世話をしている方は次の誰か (複数回答)

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

18歳未満の時から現在もケアをしている方に、お世話をしている相手を聞いたところ、「母親」が16件と最も多く、次いで「きょうだい」が11件となった。

回答全体 (n=34)	
1. 母親	16
2. 父親	6
3. 祖母	8
4. 祖父	4
5. きょうだい	11
6. その他	1



問6 (2) お世話を必要としている方の状況 (複数回答)

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

前問で選択したお世話を必要としている方について、それぞれ状況を聞いた。母親は「身体が不自由」(4件)、「こころの病気」(3件)、父親は「介護が必要」(2件)、「身体が不自由」(同)、祖母は「高齢(65歳以上)」(7件)、「身体が不自由」(4件)、祖父は「介護が必要」(4件)、「高齢(65歳以上)」(3件)、きょうだいは「身体が不自由」(3件)等の状況が挙げられた。

回答全体 (n=34)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 高齢(65歳以上)	0	0	7	3	0	0
2. 幼い	0	0	0	0	0	0
3. 介護が必要	2	2	3	4	0	0
4. 認知症	1	0	3	3	0	0
5. 身体が不自由(※1)	4	2	4	3	3	0
6. 知的障がい	1	0	0	0	0	0
7. 発達障がい(※2)	0	0	2	0	0	0
8. こころの病気(※3)	3	0	2	0	0	0
9. 依存症(※4)	0	0	0	0	0	0
10. 1～9以外の病気やけが	5	0	0	0	1	0
11. その他	0	2	1	0	1	0

※1 身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいを含む

※2 知的障がいを除く

※3 うつ病など、疑い含む

※4 お酒やギャンブルなどをやめられず、生活に問題を抱えている、疑い含む

問6 (2) お世話の内容 (複数回答)

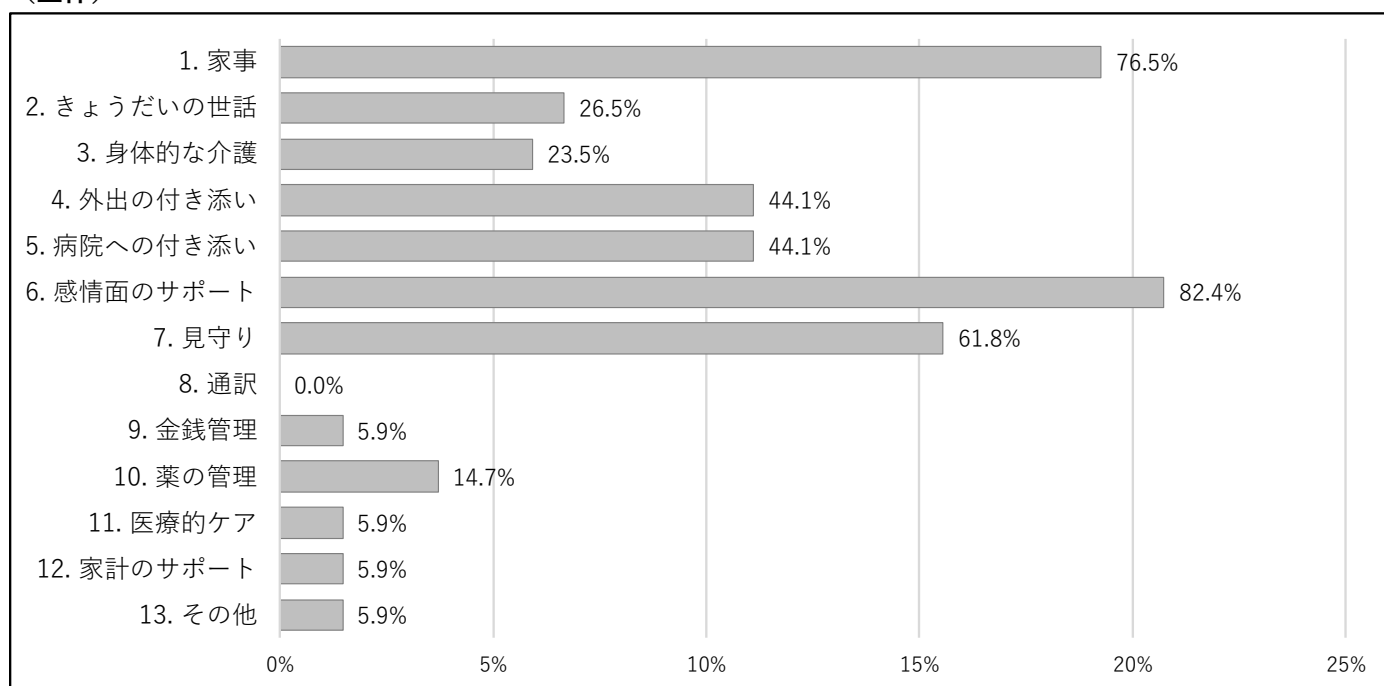
問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

行っているお世話の内容について聞いたところ、「感情面のサポート」が28件と最も多く、次いで「家事」が26件、「見守り」が21件となった。

お世話を必要としている方について、それぞれ必要なお世話の内容を見ると、母親は「家事」(12件)、「感情面のサポート」(同)、父親は「感情面のサポート」(4件)、「家事」(3件)、祖母は「外出の付き添い」(7件)、「病院への付き添い」(5件)、「見守り」(同)、祖父は「見守り」(3件)、「身体的な介護」(2件)、「病院への付き添い」(同)、きょうだいは「感情面のサポート」(9件)、「見守り」(7件)等が挙げられた。

回答全体	(n=34)	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 家事	26	12	3	4	1	5	1
2. きょうだいの世話	9	1	0	1	1	6	0
3. 身体的な介護	8	1	1	3	2	1	0
4. 外出の付き添い	15	4	2	7	0	2	0
5. 病院への付き添い	15	7	0	5	2	1	0
6. 感情面のサポート	28	12	4	3	0	9	0
7. 見守り	21	5	1	5	3	7	0
8. 通訳	0	0	0	0	0	0	0
9. 金銭管理	2	0	0	1	0	1	0
10. 薬の管理	5	3	1	1	0	0	0
11. 医療的ケア	2	0	0	1	0	1	0
12. 家計のサポート	2	2	0	0	0	0	0
13. その他	2	0	1	0	0	1	0

(全体)

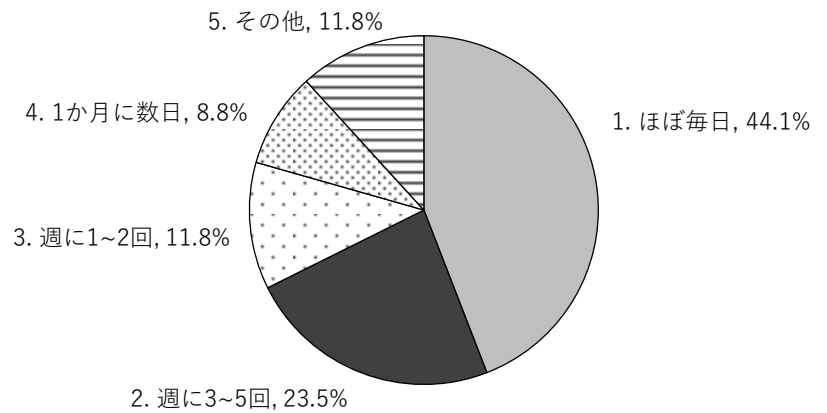


問6（3） お世話をしている日数（あてはまる番号1つを選択）

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

お世話の頻度は、「ほぼ毎日」が15件と4割超を占めた。

回答全体 (n=34)	
1. ほぼ毎日	15
2. 週に3～5日	8
3. 週に1～2日	4
4. 1か月に数日	3
5. その他	4
無回答	0

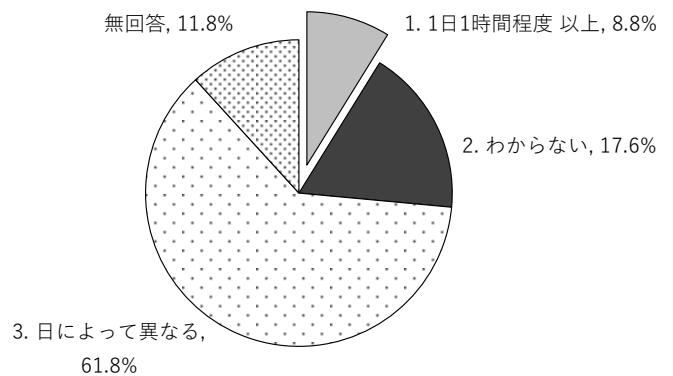


問6（4） 平日（月曜日から金曜日など学校がある日）にお世話をしている時間数

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

平日にお世話に費やす時間は次のとおり。

回答全体 (n=34)	
1. 1日1時間程度以上	3
2. わからない	6
3. 日によって異なる	21
無回答	4



「1日1時間程度以上」の内訳

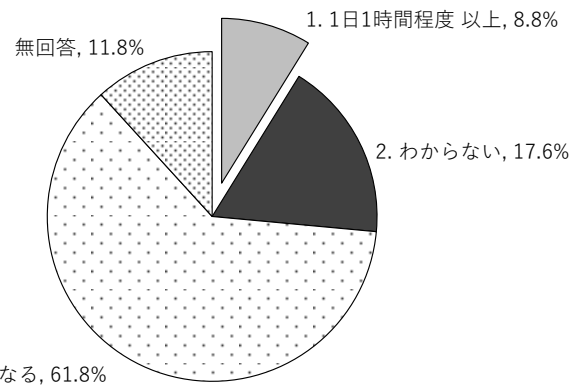
回答全体 (n=3)	
1時間程度	1
2時間程度	0
3時間程度	1
4時間程度	1
5時間程度	0
5時間超10時間未満	0

問6（5） 休日にお世話をしている時間数

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

休日にお世話に費やす時間は次のとおり。

回答全体 (n=34)	
1. 1日1時間程度 以上	3
2. わからない	6
3. 日によって異なる	21
無回答	4



「1日1時間程度以上」の内訳

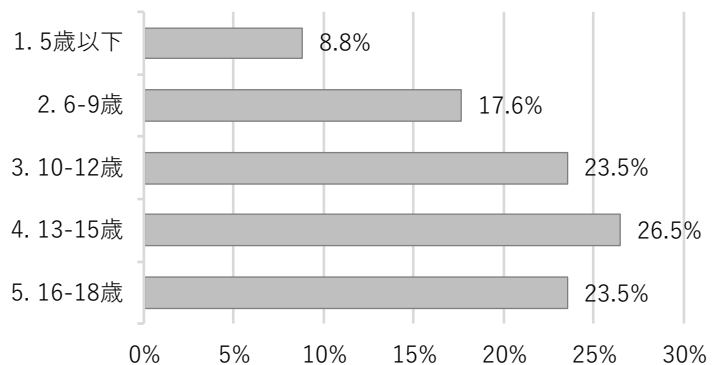
回答全体 (n=3)	
1時間程度	0
2時間程度	2
3時間程度	0
4時間程度	1
5時間程度	0
5時間超10時間未満	0
10時間超	0

問6（6） 何歳頃からお世話をしていたか

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

お世話を始めた年齢を聞いたところ、「13-15歳」が9件で最も多く、次いで「10-12歳」と「16-18歳」がそれぞれ8件となった。

回答全体 (n=34)	
1. 5歳以下	3
2. 6-9歳	6
3. 10-12歳	8
4. 13-15歳	9
5. 16-18歳	8



問6（7） お世話の悩みを相談したことがあるか

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

お世話について相談した経験の有無を聞いたところ、半数が「ない」と回答した。

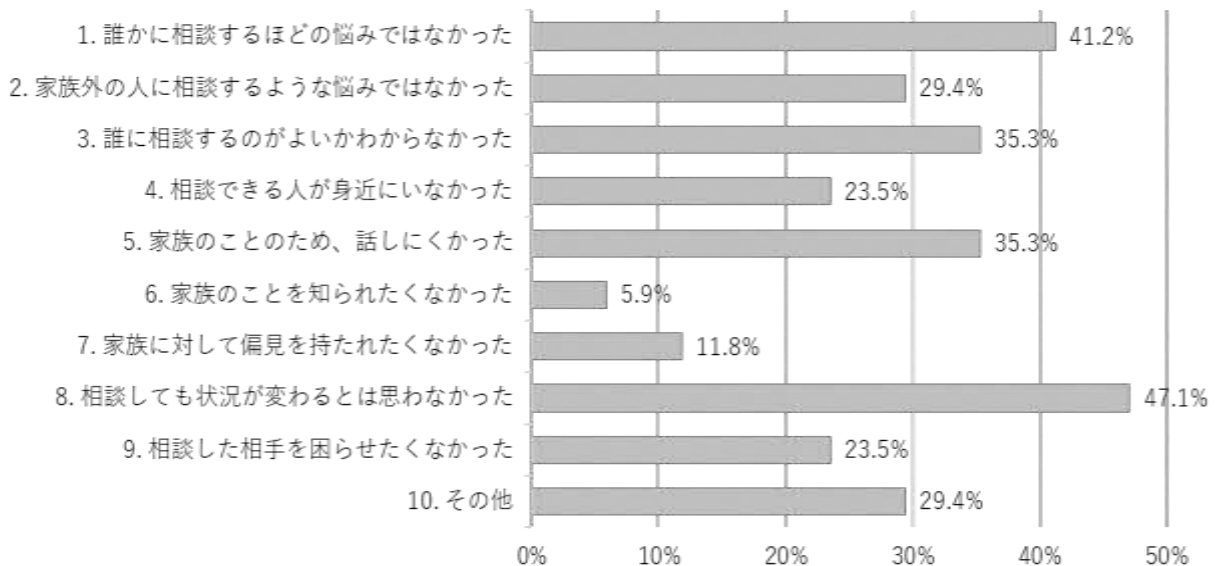
回答全体 (n=34)	
1. ある	17
2. ない	17

問6（8） 相談しない理由（複数回答）

対象：問6（7）で「2. ない」と回答した方

前問で相談した経験が「ない」と回答した人にその理由を聞いたところ、「相談しても状況が変わるとは思わなかった」が8件と最も多く、次いで「誰かに相談するほどの悩みではなかった」が7件だった。

回答全体 (n=17)	
1. 誰かに相談するほどの悩みではなかった	7
2. 家族外の人に相談するような悩みではなかった	5
3. 誰に相談するのがよいかわからなかった	6
4. 相談できる人が身近にいなかった	4
5. 家族のこのため、話しにくかった	6
6. 家族のことを知られたくなかった	1
7. 家族に対して偏見を持たれたくなかった	2
8. 相談しても状況が変わるとは思わなかった	8
9. 相談した相手を困らせたくなかった	4
10. その他	5



過去にケアをしていた方・18歳未満の時から現在もケアをしている方

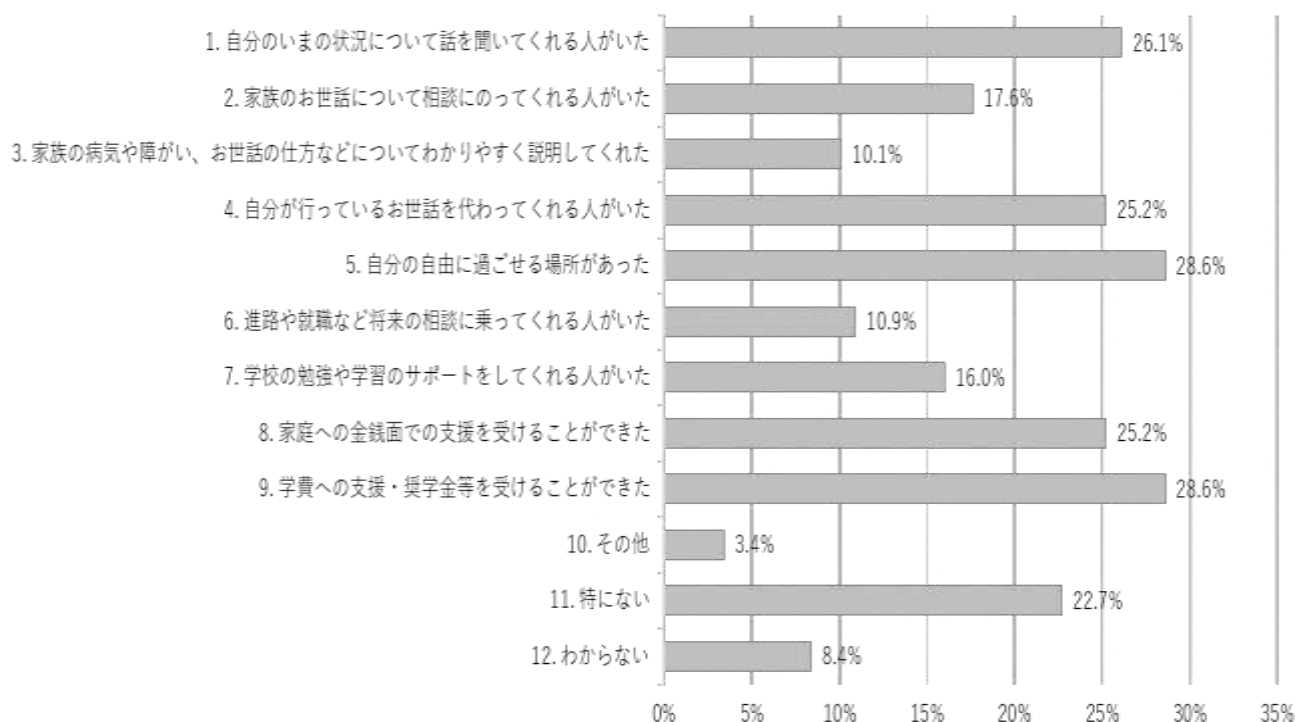
問7 お世話をしていた当時、大学進学に当たりどのようなサポートがあったか（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」

又は「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

お世話をしていた当時、大学進学に当たり、どのようなサポートがあったかを聞いたところ、「学費への支援・奨学金等を受けることができた」と「自分の自由に過ごせる場所があった」がそれぞれ34件と最も多く、次いで「自分のいまの状況について話を聞いてくれる人がいた」が31件となったが、一方で「特にない」も27件あった。

回答全体	(n=119)
1. 自分のいまの状況について話を聞いてくれる人がいた	31
2. 家族のお世話について相談にのってくれる人がいた	21
3. 家族の病気や障がい、お世話の仕方などについてわかりやすく説明してくれた	12
4. 自分が行っているお世話を代わってくれる人がいた	30
5. 自分の自由に過ごせる場所があった	34
6. 進路や就職など将来の相談に乗ってくれる人がいた	13
7. 学校の勉強や学習のサポートをしてくれる人がいた	19
8. 家庭への金銭面での支援を受けることができた	30
9. 学費への支援・奨学金等を受けることができた	34
10. その他	4
11. 特にない	27
12. わからない	10



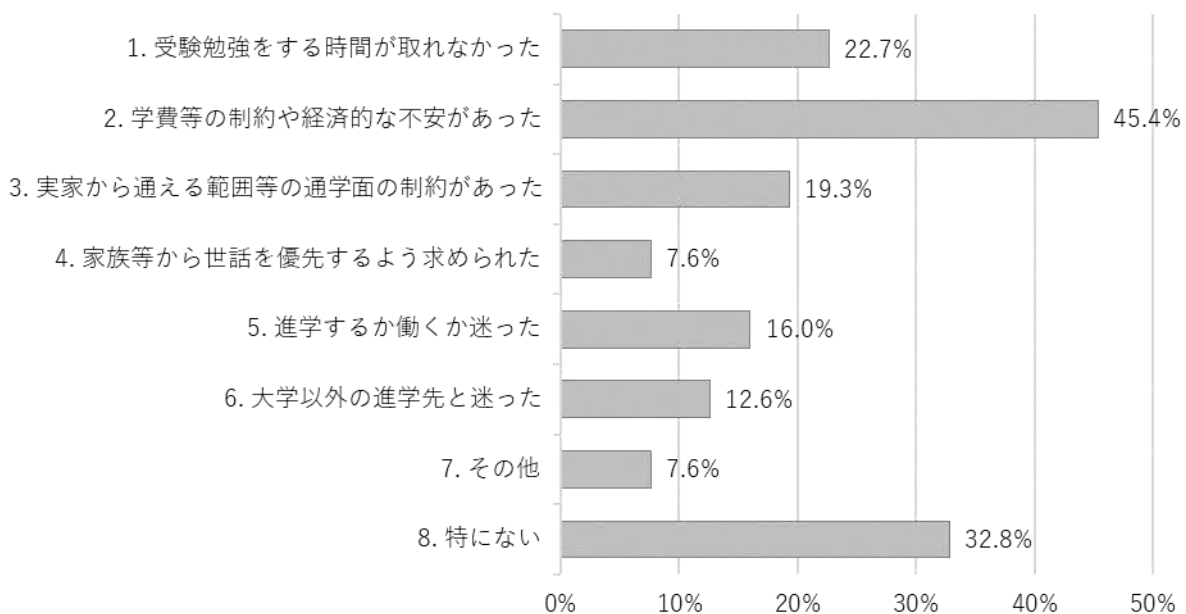
問8 大学に進学する上で苦勞したこと・影響（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」

又は「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

大学に進学する上で苦勞したことを聞いたところ、「学費等の制約や経済的な不安があった」が54件と最も多かった。

回答全体	(n=119)
1. 受験勉強をする時間が取れなかった	27
2. 学費等の制約や経済的な不安があった	54
3. 実家から通える範囲等の通学面の制約があった	23
4. 家族等から世話を優先するよう求められた	9
5. 進学するか働くか迷った	19
6. 大学以外の進学先と迷った	15
7. その他	9
8. 特にない	39



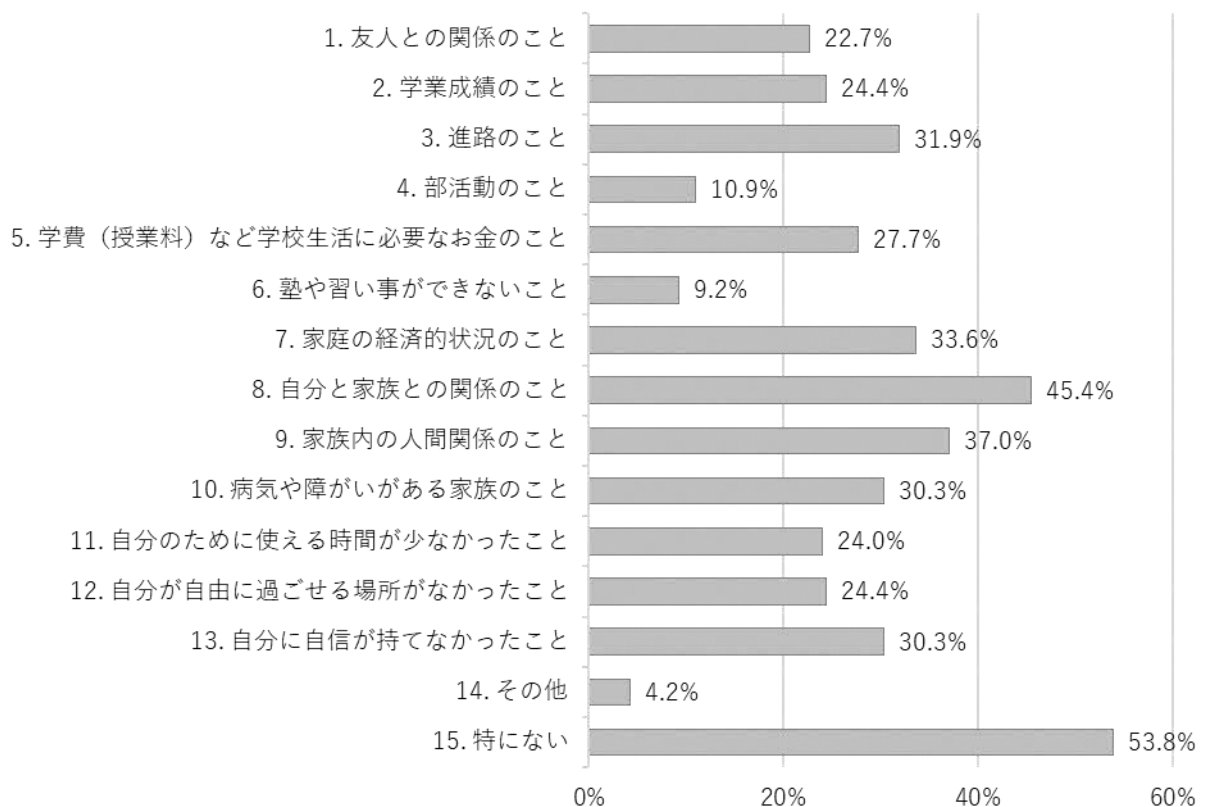
問9 お世話をしていたことで、当時（18歳未満）悩んだり、困っていたこと（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」

又は「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

お世話をしていたことで、悩んだり、困ったことを聞いたところ、「特にない」が64件と最も多かった。これを除くと、「自分と家族との関係」が54件と最も多く、次いで「家族内の人間関係」が44件、「家庭の経済的状況」が40件となった。

回答全体	(n=119)
1. 友人との関係のこと	27
2. 学業成績のこと	29
3. 進路のこと	38
4. 部活動のこと	13
5. 学費（授業料）など学校生活に必要なお金のこと	33
6. 塾（通信教育やオンライン授業を含む）や習い事ができないこと	11
7. 家庭の経済的状況のこと	40
8. 自分と家族との関係のこと	54
9. 家族内の人間関係のこと	44
10. 病気や障がいがある家族のこと	36
11. 自分のために使える時間が少なかったこと	29
12. 自分が自由に過ごせる場所がなかったこと	32
13. 自分に自信が持てなかったこと	36
14. その他	5
15. 特にない	64



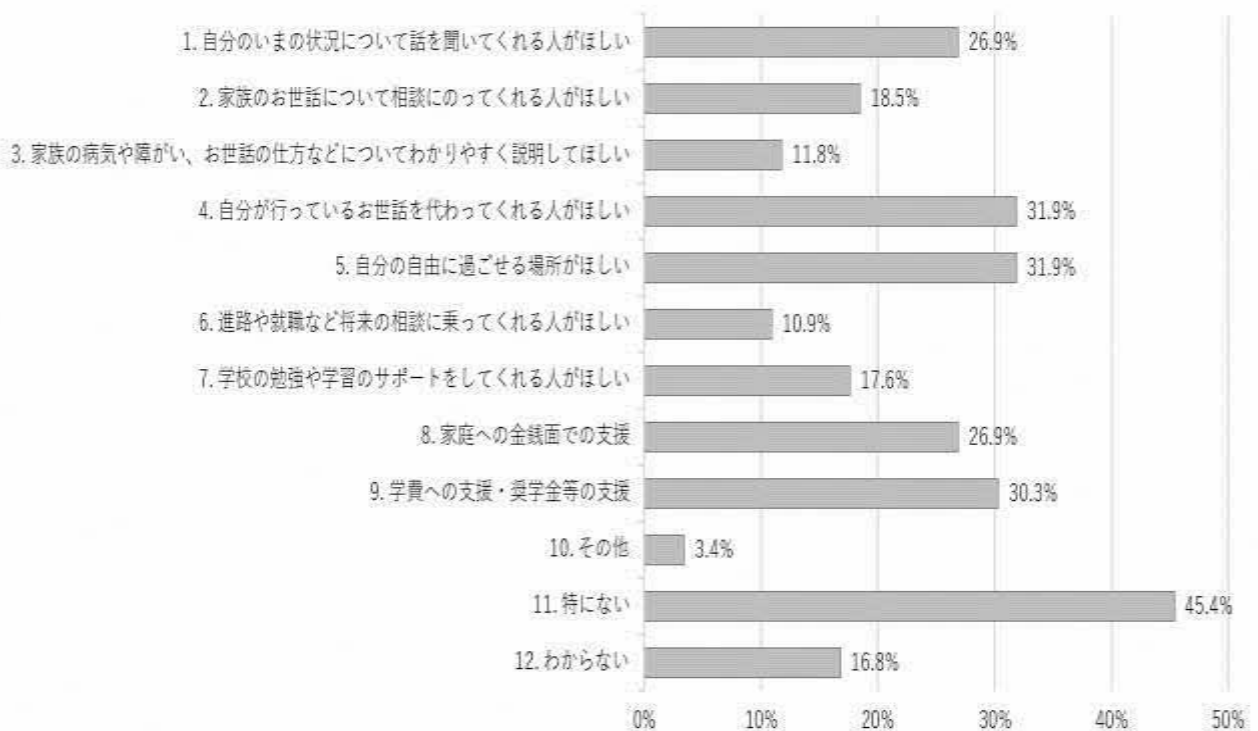
問10 お世話をしていた当時（18歳未満）、どのようなサポートがあればよかったか（複数回答）

対象：問4で「1. 過去（18歳未満）にケアをしていたことがある」

又は「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」と回答した方

求める支援について聞いたところ、「特にない」が54件と最も多かった。これを除くと、「自分が行っているお世話を代わりにしてくれる人がほしい」、「自分の自由に過ごせる場所がほしい」がそれぞれ38件と最も多く、次いで「学費への支援・奨学金等の支援」が36件となった。

回答全体	(n=119)
1. 自分のいまの状況について話を聞いてくれる人がほしい	32
2. 家族のお世話について相談にのってくれる人がほしい	22
3. 家族の病気や障がい、お世話の仕方などについてわかりやすく説明してほしい	14
4. 自分が行っているお世話を代わりにしてくれる人がほしい	38
5. 自分の自由に過ごせる場所がほしい	38
6. 進路や就職など将来の相談に乗ってくれる人がほしい	13
7. 学校の勉強や学習のサポートをしてほしい人がほしい	21
8. 家庭への金銭面での支援	32
9. 学費への支援・奨学金等の支援	36
10. その他	4
11. 特にない	54
12. わからない	20



18歳未満の時から又は18歳以上から現在もケアをしている方

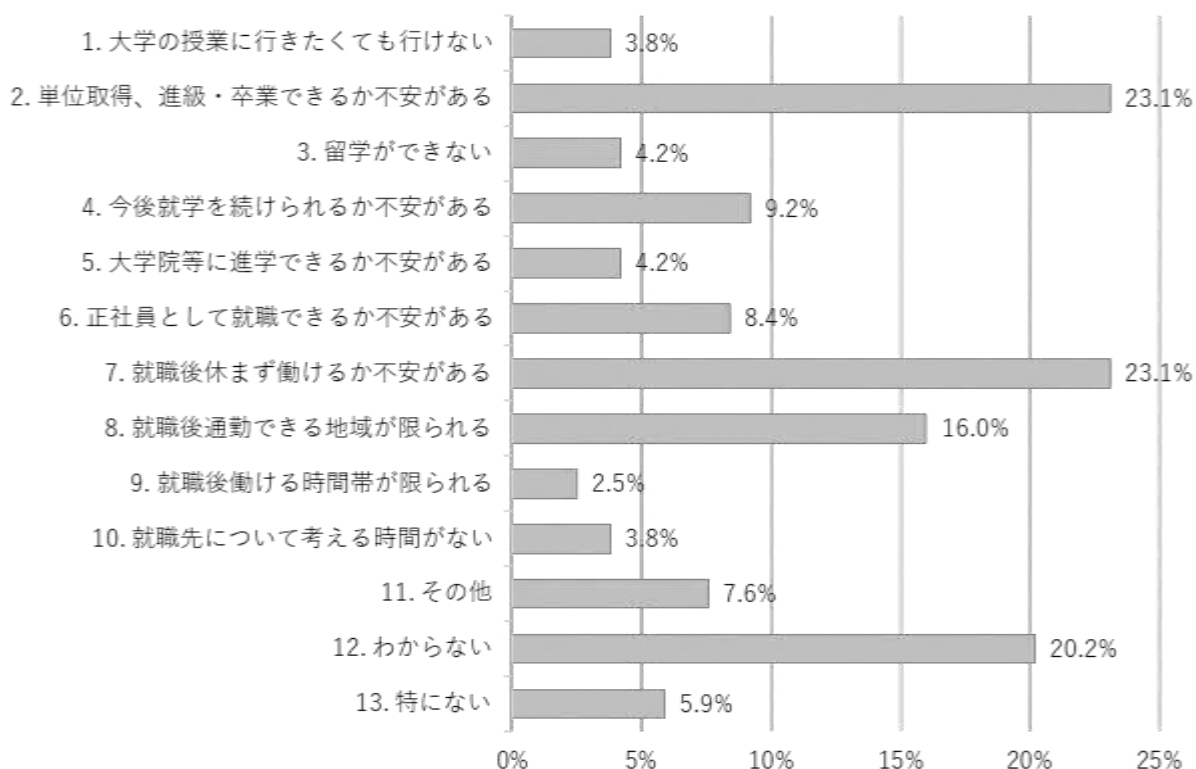
問11 お世話をしていることで、今後不安なこと（複数回答）

対象：問4で「2. 18歳未満の時から現在もケアをしている」

又は「3. 18歳以上から現在もケアをしている」と回答した方

18歳未満の時から又は18歳以上から現在もケアをしている人に今後の不安を聞いたところ、「わからない」が24件と最も多かった。これを除くと、「就職後通勤できる地域が限られる」が19件と最も多く、次いで「就職後休まず働けるか不安がある」、「単位取得、進級・卒業できるか不安がある」がそれぞれ12件となった。

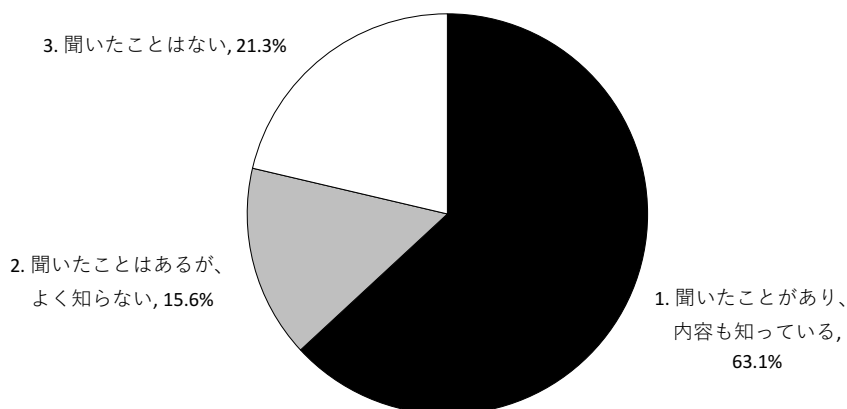
回答全体	(n=52)
1. 大学の授業に行きたくても行けない	2
2. 単位取得、進級・卒業できるか不安がある	12
3. 留学ができない	5
4. 今後就学を続けられるか不安がある	11
5. 大学院等に進学できるか不安がある	5
6. 正社員として就職できるか不安がある	10
7. 就職後休まず働けるか不安がある	12
8. 就職後通勤できる地域が限られる	19
9. 就職後働ける時間帯が限られる	3
10. 就職先について考える時間がない	2
11. その他	9
12. わからない	24
13. 特にない	7



問12 「ヤングケアラー」の認知度

「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがあるか聞いたところ、「聞いたことがあり、内容も知っている」が最も多く 657 件 (63.1%)、次いで「聞いたことはない」が 222 件 (21.3%)、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 162 件 (15.6%) となった。

全体	(n=1041)
1. 聞いたことがあり、 内容も知っている	657
2. 聞いたことはあるが、 よく知らない	162
3. 聞いたことはない	222



Ⅲ 学校におけるヤングケアラーへの対応に関するアンケート調査

1 実施概要

(1) 調査対象

道内の公立小学校及び義務教育学校(札幌市を除く) 773 校

(2) 調査方法

各学校宛てに調査概要を郵送で送付。回答者は PC、タブレット、スマートフォンを用いて調査概要に記載された URL、QR コードから調査回答フォームにアクセスし、Web 上で回答。

(3) 調査期間

2022 年 7 月 12 日 (火) ～ 2022 年 7 月 27 日 (水)

(4) 回答状況

調査対象	有効回答数	回収率
773	759	98.2%

2 調査結果

A.基本情報

回答者の役職、学校規模、学校の所在地は次のとおり。

(回答者の役職)

全体	759
1. 校長	49
2. 副校長・教頭	690
3. 主幹教諭・主任	11
4. 養護教諭	0
5. スクールソーシャルワーカー (SSW)	0
6. スクールカウンセラー (SC)	0
7. その他	8
無回答	1

(学校規模 (5年生、6年生の在籍者数))

	5年生	6年生
全体	759 件	
1. 10人未満	260	234
2. 10人以上50人未満	325	336
3. 50人以上100人未満	156	169
4. 100人以上150人未満	17	16
5. 150人以上200人未満	0	3
無回答	1	1

(学校の所在地)

全体	(n=759)
1. オホーツク	76
2. 空知	52
3. 釧路	54
4. 後志	57
5. 根室	23
6. 宗谷	34
7. 十勝	84
8. 上川	113
9. 石狩	65
10. 胆振	68
11. 渡島	76
12. 日高	24
13. 留萌	16
14. 檜山	17

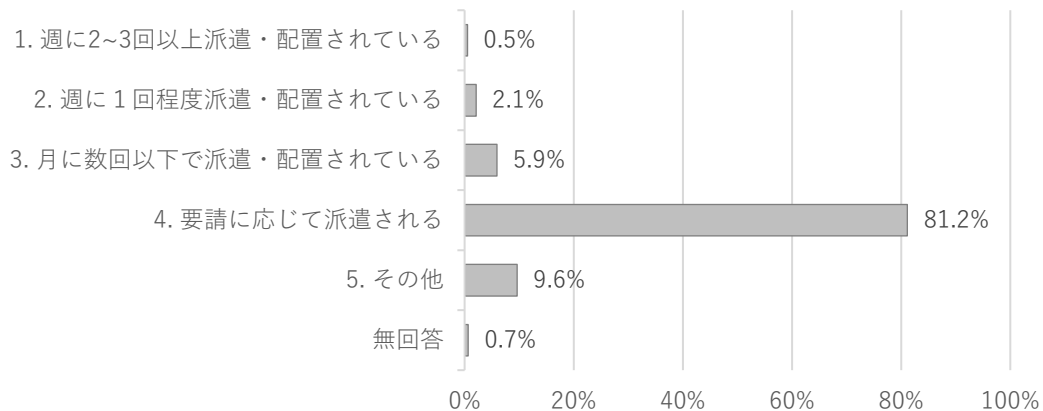
B. 調査結果

問4 SSW（スクールソーシャルワーカー）、SC（スクールカウンセラー）の派遣・配置状況

（1）SSW の派遣・配置状況

SSW の派遣・配置状況を聞いたところ、「要請に応じて派遣される」が 616 件と最も多かった。

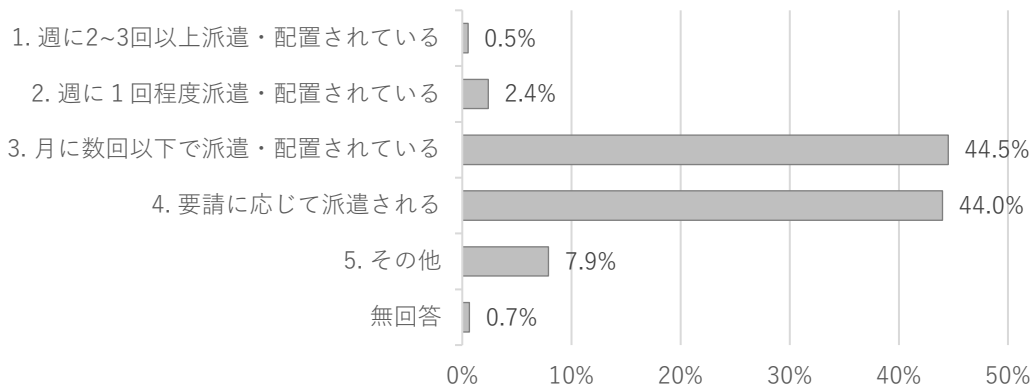
回答全体	(n=759)
1. 週に2~3回以上派遣・配置されている	4
2. 週に1回程度派遣・配置されている	16
3. 月に数回以下で派遣・配置されている	45
4. 要請に応じて派遣される	616
5. その他	73
無回答	5



（2）SC の派遣・配置状況

SC の派遣・配置状況は、「月に数回以下で派遣・配置されている」が 338 件と最も多く、次いで「要請に応じて派遣される」が 334 件だった。

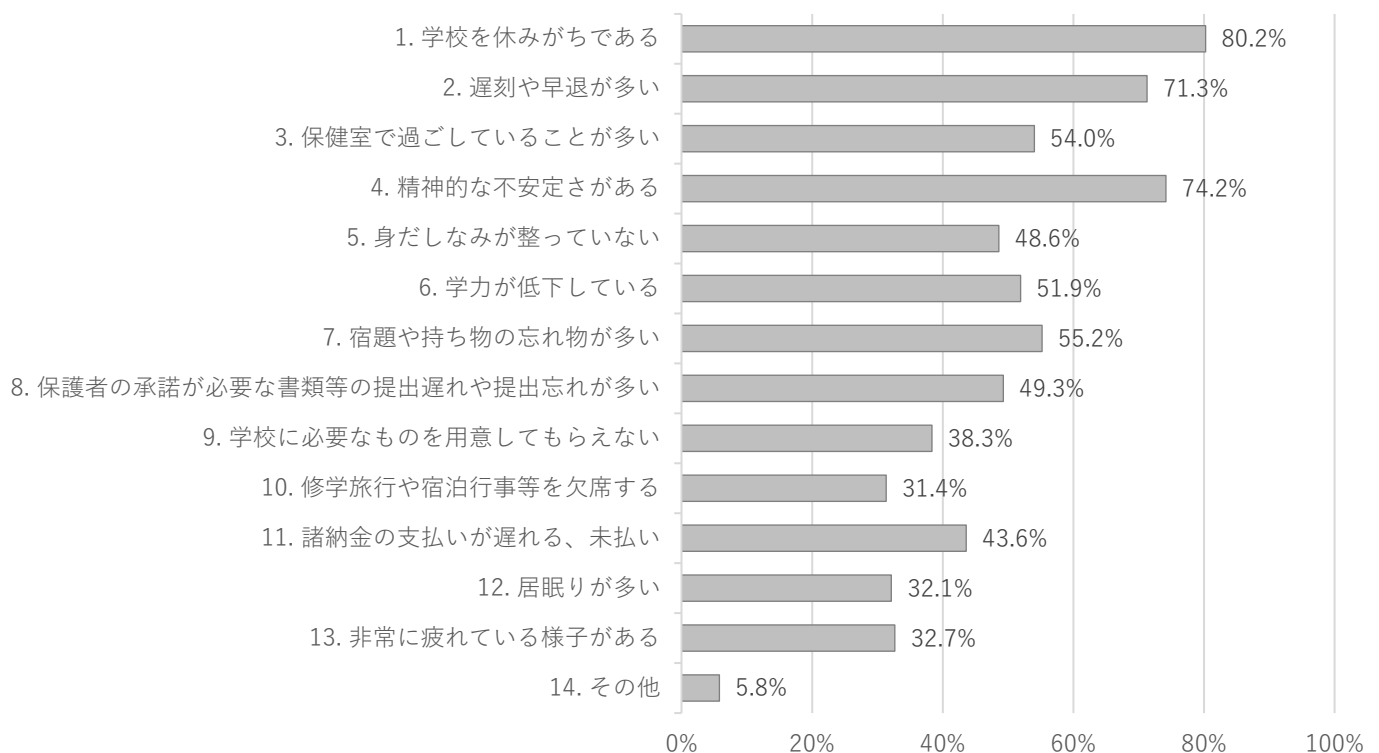
回答全体	(n=759)
1. 週に2~3回以上派遣・配置されている	4
2. 週に1回程度派遣・配置されている	18
3. 月に数回以下で派遣・配置されている	338
4. 要請に応じて派遣される	334
5. その他	60
無回答	5



問5 下記のような状態の子どもについて、校内で情報を共有しているケースの有無（複数回答）

情報共有をしているケースとして最も多かったのは「学校を休みがちである」で609件、次いで「精神的な不安定さがある」が563件だった。

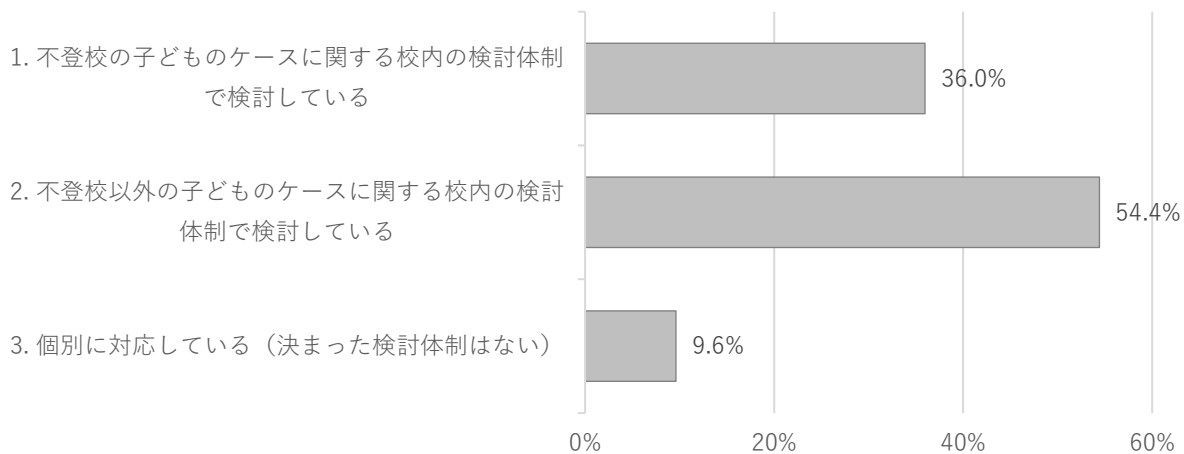
回答全体	(n = 759)
1. 学校を休みがちである	609
2. 遅刻や早退が多い	541
3. 保健室で過ごしていることが多い	410
4. 精神的な不安定さがある	563
5. 身だしなみが整っていない	369
6. 学力が低下している	394
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	419
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	374
9. 学校に必要なものを用意してもらえない	291
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する	238
11. 諸納金の支払いが遅れる、未払い	331
12. 居眠りが多い	244
13. 非常に疲れている様子がある	248
14. その他	44



問6 問5のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っているか

前問のケースについて、どのような体制で情報共有・対応の検討を行っているか聞いたところ、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」が413件と最も多かった。

全体	(n=759)
1. 不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	273
2. 不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している	413
3. 個別に対応している（決まった検討体制はない）	73



問7 「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」場合の具体的な検討体制

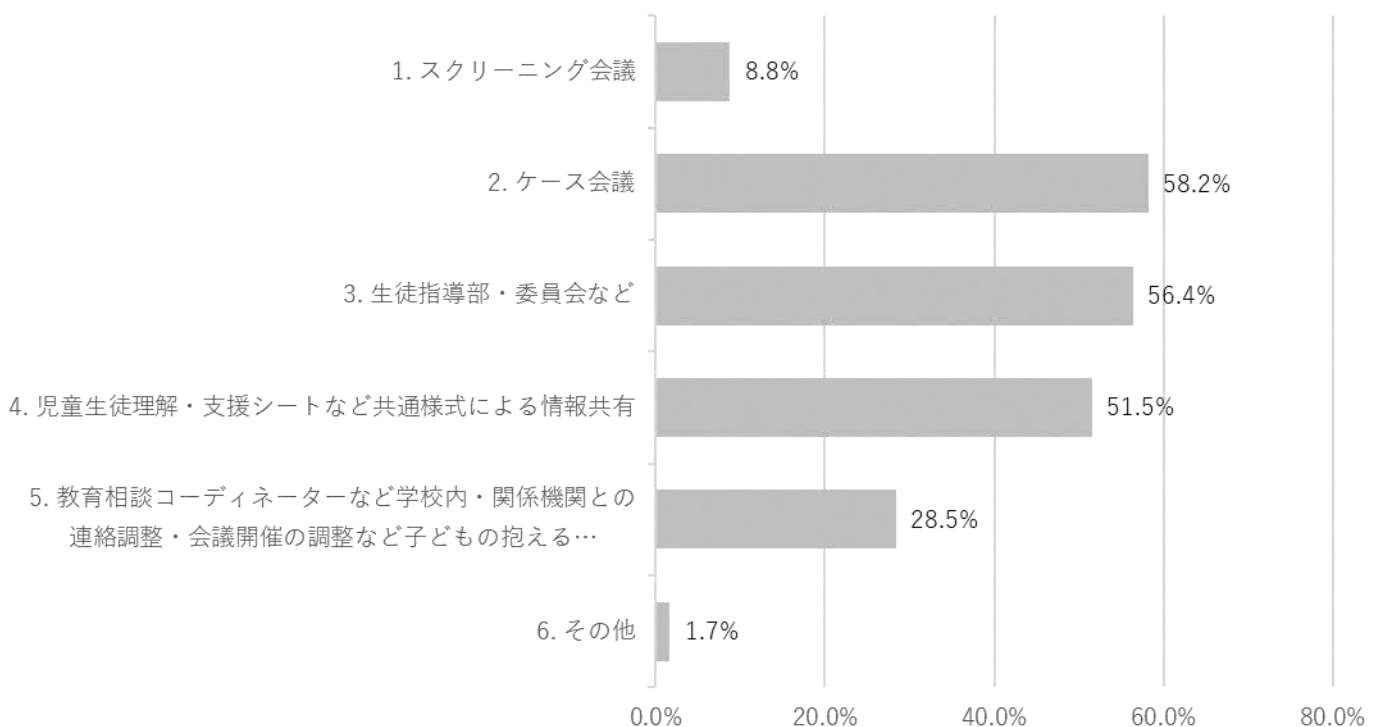
対象：問6で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方

前問で「不登校の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」、「不登校以外の子どものケースに関する校内の検討体制で検討している」と回答した方に、具体的な検討体制を聞いたところ、「ケース会議」が442件と最も多く、次いで「生徒指導部・委員会など」が428件となった。

いずれの検討体制でも、参加している教職員は、担任教諭のほか、校長、副校長・教頭、生徒指導担当、養護教諭の回答が多く、開催頻度は、「月に1回程度」、「必要な時に随時開催」が多かった。

(1) 情報共有・対応の検討体制（複数回答）

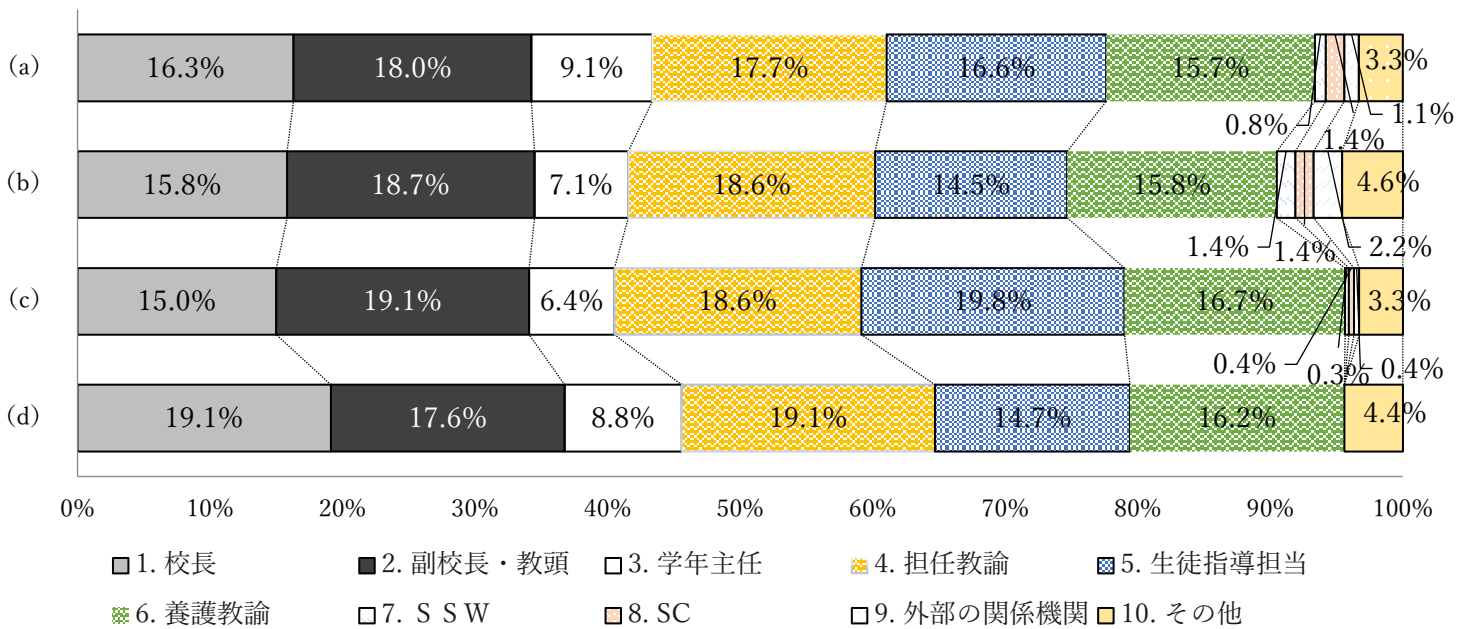
全体 (n = 759)	
1. スクリーニング会議	67
2. ケース会議	442
3. 生徒指導部・委員会など	428
4. 児童生徒理解・支援シートなど共通様式による情報共有	391
5. 教育相談コーディネーターなど学校内・関係機関との連絡調整・会議開催の調整など子どもの抱える課題の解決に向けて調整役として活動する教職員の配置	216
6. その他	13



(2) 参加している教職員

区分	(a)	(b)	(c)	(d)
1. 校長	59	359	310	13
2. 副校長・教頭	65	424	394	12
3. 学年主任	33	161	133	6
4. 担任教諭	64	423	385	13
5. 生徒指導担当	60	329	410	10
6. 養護教諭	57	359	344	11
7. SSE	3	32	6	0
8. SC	5	31	8	0
9. 外部の関係機関	4	49	8	0
10. その他	12	104	68	3

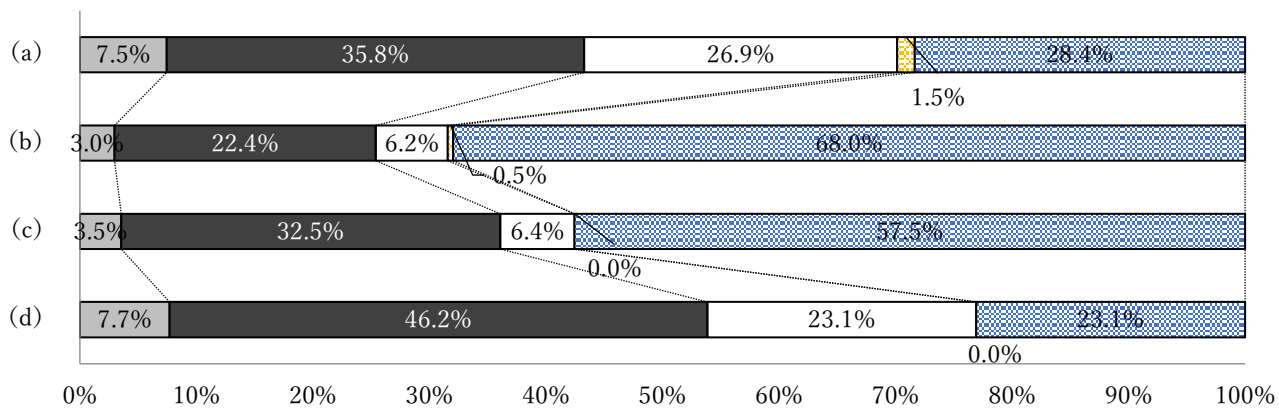
(a) スクリーニング会議
 (b) ケース会議
 (c) 生徒指導部・委員会など
 (d) その他



(3) 開催頻度

区分	(a)	(b)	(c)	(d)
1. 2週間に1回以上	5	13	15	1
2. 月に1回程度	24	98	138	6
3. 半年に1回程度	18	27	27	3
4. 年に1回程度	1	2	0	0
5. 必要な時に随時開催	19	297	244	3

(a) スクリーニング会議
 (b) ケース会議
 (c) 生徒指導部・委員会など
 (d) その他



1. 2週間に1回以上
 2. 月に1回程度
 3. 半年に1回程度
 4. 年に1回程度
 5. 必要な時に随時開催

問8 「個別に対応している」場合の検討体制

対象：問6で「個別に対応している」と回答した方

問6で「個別に対応している」と回答した方に、どのような体制・方法（関わる教職員、情報共有や検討の方法、頻度等）で情報共有や対応の検討を行っているか聞いたところ、次のようなものが挙げられた。

（日常的に児童の状況を把握・共有）

- ・小規模校のため、全児童の状況を全教職員で都度確認している。
- ・生徒指導委員会等はあるが、教職員数が少ないため、重大な事案になる前に、日常的に全教職員で情報共有し、対応を確認している。

（職員会議等を活用）

- ・毎朝の職員会議で情報共有を図っている。必要に応じて、担任、指導部長、管理職等で検討し、全体に周知している。
- ・職員会議や研修日の最後に必ず全職員で情報共有したり、各ケースを検討したりする時間を設けている。緊急の場合、朝の打合せ時間を使って情報共有・対応の検討を行う。

（支援を必要とする児童の関係者が必要に応じて集まって検討）

- ・該当するケースが生じた場合、校長、教頭、担任で情報共有し、対応している。必要に応じて、教頭を通じて支援員や公務補、SCとも情報共有している。
- ・学級担任と管理職のほか、ケースによって、例えば体調面であれば養護教諭、学習面であれば教務、子どもの特性を注意して見る必要があれば特別支援コーディネーターに参画を求めるなど、メンバーを固定せず、柔軟に対応している。
- ・支援を必要とする児童の関係者が必要に応じて集まって対応策を検討している。

（養護教諭を起点に情報共有・対応を検討）

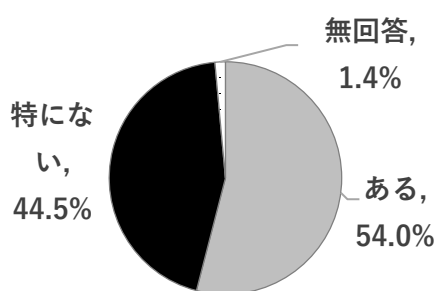
- ・保健室の利用から始まるため、該当するケースが生じた場合、まずは養護教諭に聞き取りを行い、管理職に報告。内容によって管理職が対象児童と面談。面談内容は担任とも情報共有し、経過観察。
- ・養護教諭が毎日、保健室の来室状況を記録し、管理職に報告。必要に応じてケース会議を開催し、対応を検討。内容に応じて臨時の教職員集会を開催し、周知。

問9 要保護児童対策地域協議会の登録ケース、不登校のケース、それ以外について、それぞれ学校以外の関係機関と連携して情報共有や対応の検討を行うための体制があるか。連携体制がある場合、連携する関係機関はどこか。

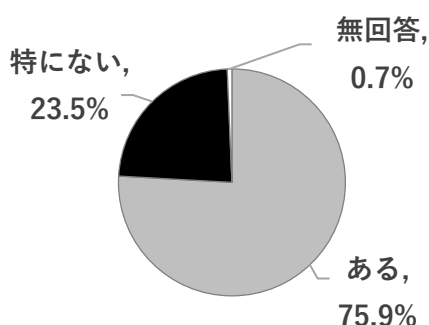
学校以外の関係機関との連携の有無とその関係機関について聞いたところ、要保護児童対策地域協議会の登録ケースでは、「ある」が5割超となり、連携先機関として、市区町村教育委員会のほか、児童相談所、市区町村の福祉部門が多く挙げられた。

また、不登校のケースでは、「ある」が4分の3となり、連携先機関として、市町村教育委員会のほか、教育支援センター（適応指導教室）、SSW、市区町村の福祉部門が多く挙げられた。

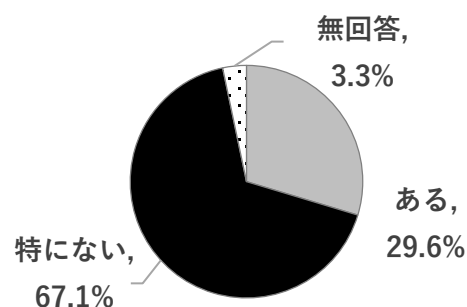
(1) 要保護児童対策地域協議会の登録ケース



(2) 不登校のケース



(3) それ以外



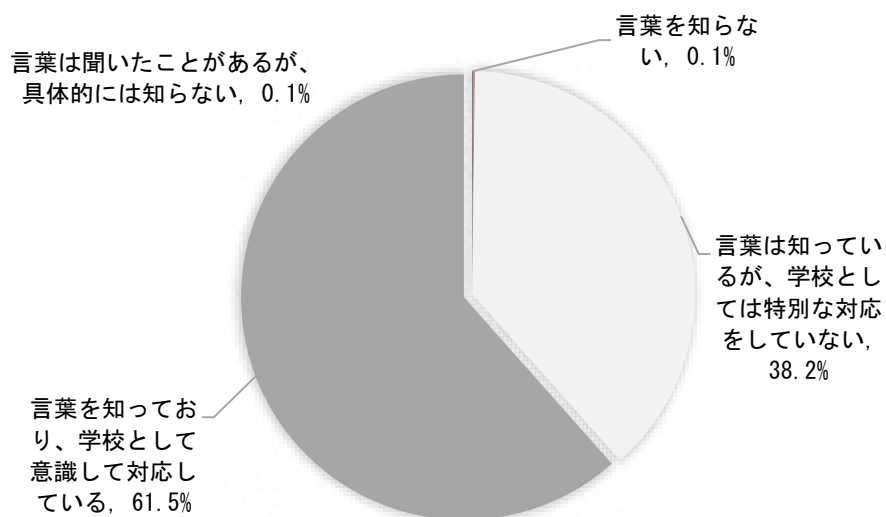
(関係機関)

(関係機関)	(1)	(2)	(3)
1. 市区町村教育委員会	359	530	204
2. SSW	132	241	75
3. 市区町村の福祉部門（4を除く）	247	190	92
4. 市区町村の保健部門	184	117	70
5. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	215	92	42
6. 教育支援センター（適応指導教室）	97	241	56
7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	36	70	12
8. 児童相談所	263	170	85
9. 民生委員	119	106	43
10. 医療機関	87	94	44
11. 警察や刑事司法関係機関	75	24	34
12. その他	4	9	9

問10 「ヤングケアラー」という概念を認識しているか

「ヤングケアラー」の概念の認識について聞いたところ、「言葉を知っており、学校として意識して対応している」が467件（61.5%）と最も多く、次いで「言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない」が290件（38.2%）となった。

回答全体	(n=759)
1. 言葉知らない	1
2. 言葉は聞いたことがあるが、具体的には知らない	1
3. 言葉は知っているが、学校としては特別な対応をしていない	290
4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している	467

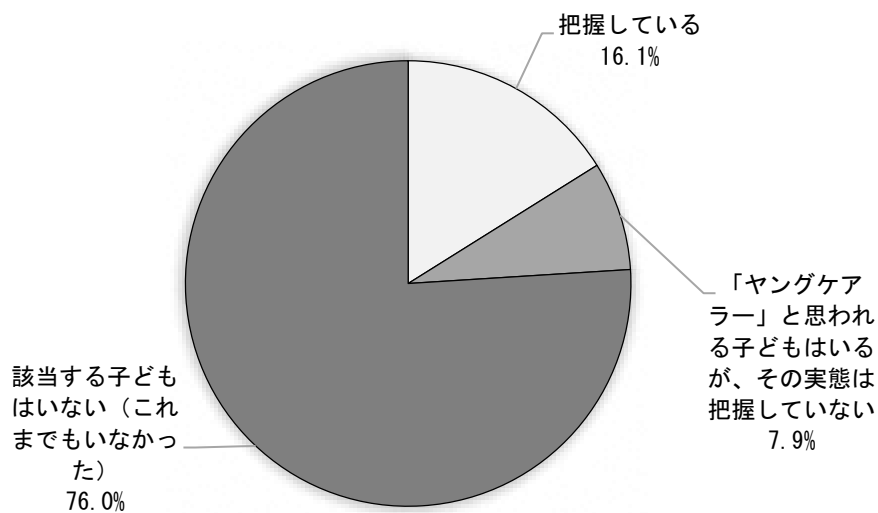


問11 「ヤングケアラー」と思われる子どもの実態を把握しているか

対象：問10で「4. 言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方

前問で「言葉を知っており、学校として意識して対応している」と回答した方に、「ヤングケアラー」の実態把握について聞いたところ、「該当する子どもはいない（これまでもいなかった）」が355件（76.0%）と最も多かった。

回答全体	(n=467)
1. 把握している	75
2. 「ヤングケアラー」と思われる子どもはいるが、その実態は把握していない	37
3. 該当する子どもはいない（これまでもいなかった）	355

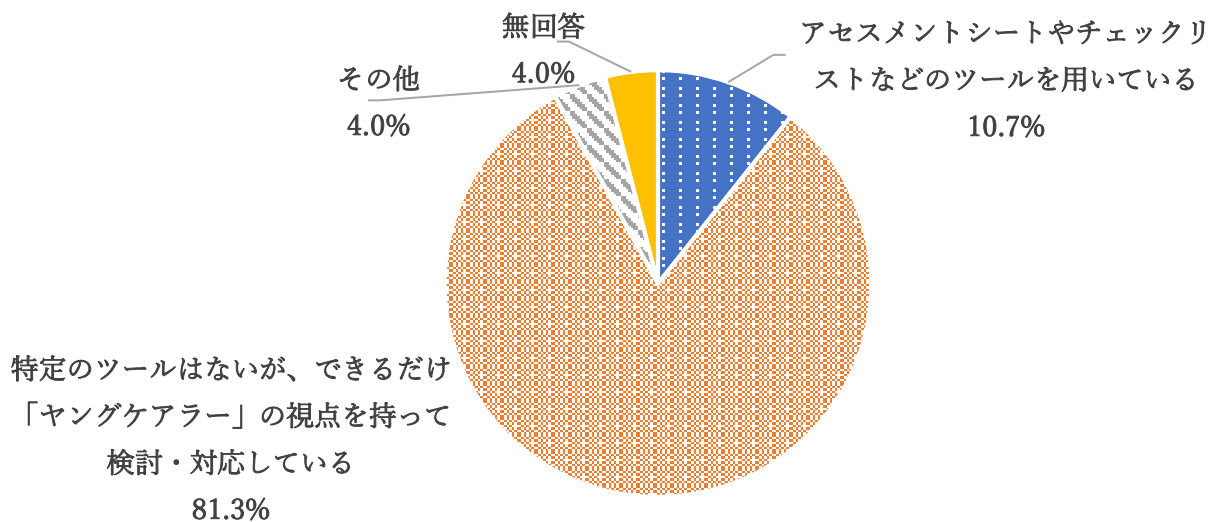


問12 「ヤングケアラー」と思われる子どもをどのように把握しているか

対象：問11で「1. 把握している」と回答した方

前問で「把握している」と回答した学校にどのように把握しているかを聞いたところ、「特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点をもって検討・対応している」が61件と最も多く、次いで「アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている」が8件だった。

回答全体	(n=75)
1. アセスメントシートやチェックリストなどのツールを用いている	8
2. 特定のツールはないが、できるだけ「ヤングケアラー」の視点を持って検討・対応している	61
3. その他	3
無回答	3

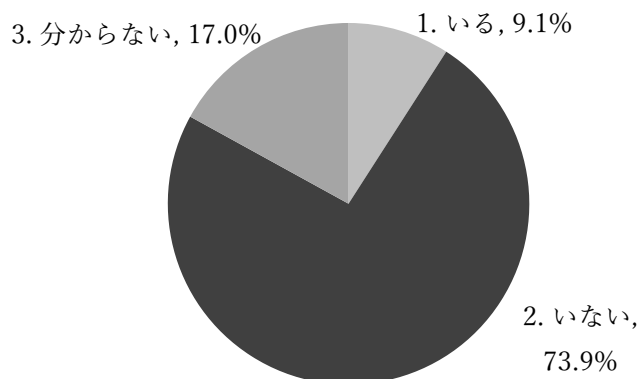


問13 ヤングケアラーの定義を踏まえて、現在、貴校にヤングケアラーと思われる（可能性も含めて）子どもはいますか。

【ヤングケアラーの定義】～本来大人がすると想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子ども。

ヤングケアラーと思われる子どもの有無を聞いたところ、「いない」が561件と最も多く、次いで「わからない」が129件、「いる」が69件となった。

回答全体 (n=759)	
1. いる	69
2. いない	561
3. 分からない	129



問14 (1) ヤングケアラーと思われる子どもの状況について当てはまるもの(複数回答)

対象：問13で「1. いる」と回答した方

前問でヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した方に対し、その子どもの状況を聞いたところ、「大人の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている」が53件と最も多く、次いで「障がいや病気のある家族に代わり、家事をしている」が11件となった。

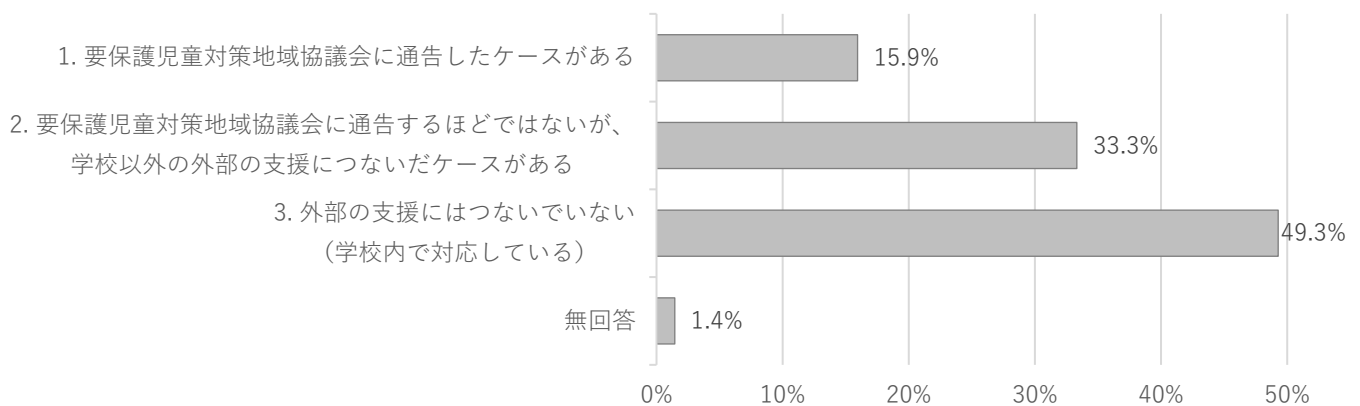
回答全体 (n=69)	
1. 障がいや病気のある家族に代わり、家事（買い物、料理、洗濯、掃除など）をしている	11
2. 大人の代わりに、幼いきょうだいの世話をしている	53
3. 大人の代わりに、障がいや病気のあるきょうだいの世話をしている	4
4. 目を離せない家族の見守りや声掛けをしている	6
5. 家族の通訳（日本語や手話など）をしている	2
6. 家計を支えるために、アルバイト等をしている	0
7. アルコール・薬物・ギャンブルなどの問題のある家族に対応している	2
8. 病気の家族の看病をしている（たんの吸引や経管栄養の管理等、医療的ケアを含む）	2
9. 障がいや病気のある家族の身の回りの世話をしている	6
10. 障がいや病気のある家族の入浴やトイレの介助をしている	0
11. 精神的に不安定な親のケアをしている	10
12. 障がいや病気の家族の世話や介護のことをいつも気にかけている	1
13. その他	1

問14（2）ヤングケアラーと思われる子どもについて、具体的に学校以外の外部（教育委員会、役所、要保護児童対策地域協議会など）の支援につないだケース（複数回答）

対象：問13で「1. いる」と回答した方

ヤングケアラーと思われる子どもが「いる」と回答した方に対し、外部の支援につないだケースの有無を聞いたところ、「外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）」が34件と最も多く、次いで「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」が23件、「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」が11件となった。

回答全体 (n=69)	
1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある	11
2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある	23
3. 外部の支援にはつないでいない（学校内で対応している）	34
無回答	1



問14（3）それぞれの該当する直近のケースについてお教えてください

対象：問14（2）で「1. 要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、又は「2. 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方

前問で「要保護児童対策地域協議会に通告したケースがある」、「要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケースがある」と回答した方に、それぞれのケースの対象児童の性別や学年、学校生活の状況、家族構成、ケアの状況の把握の有無等を聞いたところ、次のとおりだった。

（1）要保護児童対策地域協議会に通告したケース

①対象児童の性別

1. 女性	9
2. 男性	2
3. その他	0

②対象児童の学年

1. 小学1年生	1
2. 小学2年生	1
3. 小学3年生	2
4. 小学4年生	2
5. 小学5年生	3
6. 小学6年生	2

③対象児童の学校生活の状況

回答全体	(n = 11)
1. 学校を休みがちである	5
2. 遅刻や早退が多い	5
3. 保健室で過ごしていることが多い	1
4. 精神的な不安定さがある	4
5. 身だしなみが整っていない	5
6. 学力が低下している	6
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	7
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	7
9. 学校に必要なものを用意してもらえない	4
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する	1
11. 諸納金が遅れる、未払い	4
12. 居眠りが多い	1
13. 非常に疲れている様子がある	1
14. その他	1

④対象児童の家族構成

1. 母親	10
2. 父親	5
3. 祖母	1
4. 祖父	0
5. きょうだい	9
6. その他	0

⑤対象児童の家庭でのケアの状況を把握しているか

1. はい	11
2. いいえ	0

⑥ケアを必要としている人

1. 母親	4
2. 父親	0
3. 祖母	1
4. 祖父	0
5. きょうだい	5
6. その他	1

⑦ケアを必要としている人の状況

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 高齢（65歳以上）	0	0	0	0	0	1
2. 若い	0	0	0	0	5	0
3. 要介護（介護が必要な状態）	0	0	1	0	0	0
4. 認知症	0	0	1	0	0	0
5. 身体障がい	0	0	0	0	0	0
6. 知的障がい	0	0	0	0	0	1
7. 発達障がい	0	0	0	0	1	0
8. 精神疾患（疑い含む）	4	0	0	0	0	0
9. 依存症（疑い含む）	2	0	0	0	0	0
10. 8、9以外の病気やけが	0	0	0	0	0	0
11. その他	0	0	0	0	0	0
12. わからない	0	0	0	0	0	0

⑧ケアの内容

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 家事(※1)	3	0	1	0	1	1
2. きょうだいの世話(※2)	0	0	0	0	5	0
3. 身体的な介護(※3)	0	0	0	0	1	1
4. 外出の付き添い(※4)	0	0	0	0	1	1
5. 通院の付き添い	0	0	0	0	0	1
6. 感情面のサポート(※5)	1	0	0	0	0	1
7. 見守り	1	0	0	0	2	0
8. 通訳(※6)	0	0	0	0	0	0
9. 金銭管理	0	0	0	0	0	0
10. 薬の管理	1	0	0	0	0	0
11. 医療的ケア(※7)	0	0	0	0	0	0
12. 家計のサポート(※8)	0	0	0	0	0	0
13. その他	0	0	0	0	0	0
14. わからない	1	0	0	0	0	0

※1 食事の準備や掃除、洗濯 ※2 保育所等への送迎など ※3 入浴やトイレのお世話など
 ※4 買い物、散歩など ※5 愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど※6 日本語や手話など
 ※7 たんの吸引や経管栄養の管理など ※8 家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど

⑨この世帯がどのような機関とつながっていたか ⑩要保護児童対策地域協議会への通告ルート

1. 医療機関や訪問医療	6
2. 福祉サービス	5
3. その他	4
4. わからない	0

1. 市区町村教育委員会経由	5
2. SSW経由	0
3. 学校から直接連絡	5
4. その他	1

⑪学校が直接連携した機関

1. 市区町村教育委員会	9
2. SSW	3
3. 市区町村の福祉部門（4を除く）	7
4. 市区町村の保健部門	3
5. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	9
6. 教育支援センター（適応指導教室）	2
7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	1
8. 児童相談所	8
9. 民生委員	2
10. 医療機関	0
11. 警察や刑事司法関係機関	0
12. その他	0

(2) 要保護児童対策地域協議会に通告するほどではないが、学校以外の外部の支援につないだケース

①対象児童の性別

1. 女性	15
2. 男性	14
3. その他	0
無回答	1

②対象児童の学年

1. 小学1年生	0
2. 小学2年生	0
3. 小学3年生	2
4. 小学4年生	4
5. 小学5年生	12
6. 小学6年生	11
無回答	1

③対象児童の学校生活の状況

1. 学校を休みがちである	8
2. 遅刻や早退が多い	8
3. 保健室で過ごしていることが多い	0
4. 精神的な不安定さがある	9
5. 身だしなみが整っていない	10
6. 学力が低下している	4
7. 宿題や持ち物の忘れ物が多い	5
8. 保護者の承諾が必要な書類等の提出遅れや提出忘れが多い	6
9. 学校に必要なものを用意してもらえない	5
10. 修学旅行や宿泊行事等を欠席する	1
11. 諸納金が遅れる、未払い	4
12. 居眠りが多い	0
13. 非常に疲れている様子がある	1
14. その他	6

④対象児童の家族構成

1. 母親	25
2. 父親	15
3. 祖母	0
4. 祖父	1
5. きょうだい	21
6. その他	2
無回答	1

⑤対象児童の家庭でのケアの状況を把握しているか

1. はい	21
2. いいえ	6
無回答	3

⑥ケアを必要としている人

1. 母親	10
2. 父親	0
3. 祖母	0
4. 祖父	1
5. きょうだい	12
6. その他	1
無回答	9

⑦ケアを必要としている人の状況

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 高齢（65歳以上）	0	0	0	1	0	0
2. 幼い	3	0	0	0	10	1
3. 要介護（介護が必要な状態）	0	0	0	0	0	0
4. 認知症	0	0	0	0	0	0
5. 身体障がい	0	0	0	0	0	0
6. 知的障がい	0	0	0	0	2	0
7. 発達障がい	0	0	0	0	0	0
8. 精神疾患（疑い含む）	4	0	0	0	1	0
9. 依存症（疑い含む）	1	0	0	0	0	0
10. 8、9以外の病気やけが	2	0	0	0	0	0
11. その他	2	0	0	0	2	0
12. わからない	0	0	0	0	0	0

⑧ケアの内容

	母親	父親	祖母	祖父	きょうだい	その他
1. 家事(※1)	2	0	0	0	4	0
2. きょうだいの世話(※2)	2	0	0	0	9	1
3. 身体的な介護(※3)	0	0	0	1	1	0
4. 外出の付き添い(※4)	1	0	0	0	0	0
5. 通院の付き添い	1	0	0	0	0	0
6. 感情面のサポート(※5)	2	0	0	0	1	0
7. 見守り	3	0	0	0	3	0
8. 通訳(※6)	0	0	0	0	0	0
9. 金銭管理	0	0	0	0	0	0
10. 薬の管理	0	0	0	0	1	0
11. 医療的ケア(※7)	0	0	0	0	1	0
12. 家計のサポート(※8)	0	0	0	0	0	0
13. その他	2	0	0	0	1	0
14. わからない	0	0	0	0	2	0

※1 食事の準備や掃除、洗濯 ※2 保育所等への送迎など ※3 入浴やトイレのお世話など

※4 買い物、散歩など ※5 愚痴を聞く、話し相手や遊び相手になるなど ※6 日本語や手話など

※7 たんの吸引や経管栄養の管理など ※8 家計を支えるためにアルバイトや労働をするなど

⑨この世帯がどのような機関とつながっていたか ⑩外部機関へのつなぎ方

1. 医療機関や訪問医療	5
2. 福祉サービス	11
3. その他	1
4. わからない	9
無回答	6

1. 市区町村教育委員会経由	9
2. SSW経由	2
3. 学校から直接連絡	14
4. その他	0
無回答	5

⑪学校が直接連携した機関

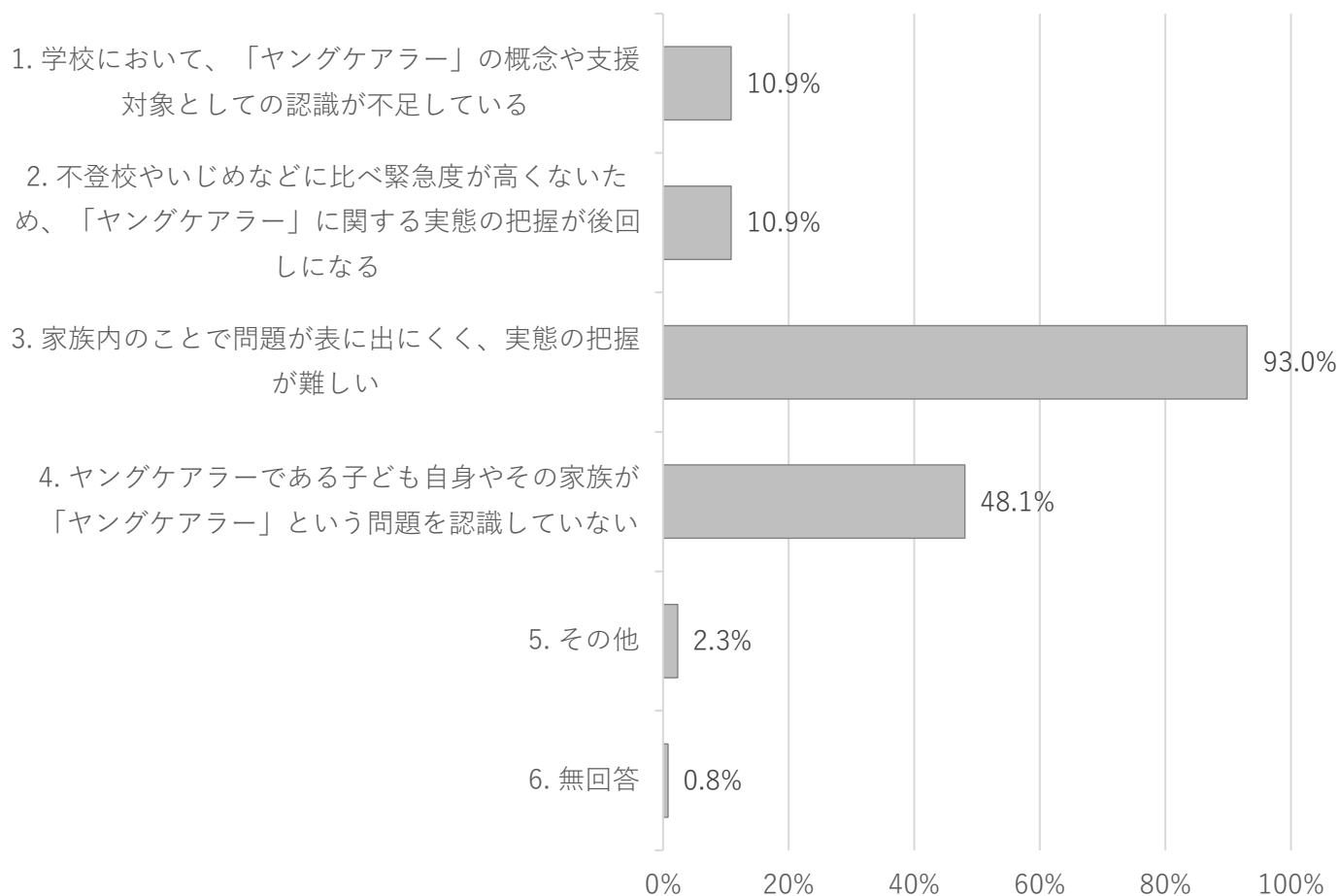
1. 市区町村教育委員会	13
2. SSW	3
3. 市区町村の福祉部門（4を除く）	10
4. 市区町村の保健部門	5
5. 市区町村の要保護児童対策地域協議会の調整機関/虐待対応部門	3
6. 教育支援センター（適応指導教室）	0
7. フリースクール・子ども食堂などの民間団体・施設	3
8. 児童相談所	1
9. 民生委員	1
10. 医療機関	3
11. 警察や刑事司法関係機関	0
12. その他	0

問15 分からないと回答した理由について（複数回答）

対象：問13で「3. 分からない」と回答した方

ヤングケアラーと思われる子どもの有無について「わからない」と回答した方に対し、その理由を聞いたところ、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい」が120件と最も多く、次いで「ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない」が62件となった。

全体 (n = 129)	
1. 学校において、「ヤングケアラー」の概念や支援対象としての認識が不足している	14
2. 不登校やいじめなどに比べ緊急度が低いいため、「ヤングケアラー」に関する実態の把握が後回しになる	14
3. 家族内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい	120
4. ヤングケアラーである子ども自身やその家族が「ヤングケアラー」という問題を認識していない	62
5. その他	3
無回答	1



問16 ヤングケアラーを支援するために、必要だと思うこと（複数回答）

必要と考えるヤングケアラーへの支援の内容を聞いたところ、「教職員がヤングケアラーについて知ること」が660件と最も多く、次いで「子ども自身がヤングケアラーについて知ること」が640件、「子どもが教員に相談しやすい関係をつくること」が618件となった。

全体 (n = 759)	
1. 子ども自身がヤングケアラーについて知ること	640
2. 教職員がヤングケアラーについて知ること	660
3. 学校にヤングケアラーが何人いるか把握すること	455
4. SSWやSCなどの専門職の配置が充実すること	498
5. 子どもが教員に相談しやすい関係をつくること	618
6. ヤングケアラーについて検討する組織を校内につくること	227
7. 学校にヤングケアラー本人や保護者が相談できる窓口があること	354
8. 学校がヤングケアラーの支援について相談できる機関があること	438
9. ヤングケアラーを支援するNPOなどの団体が増えること	250
10. 福祉と教育の連携を進めること	179
11. その他	15
12. 特にない	4

